

第2章 調査結果

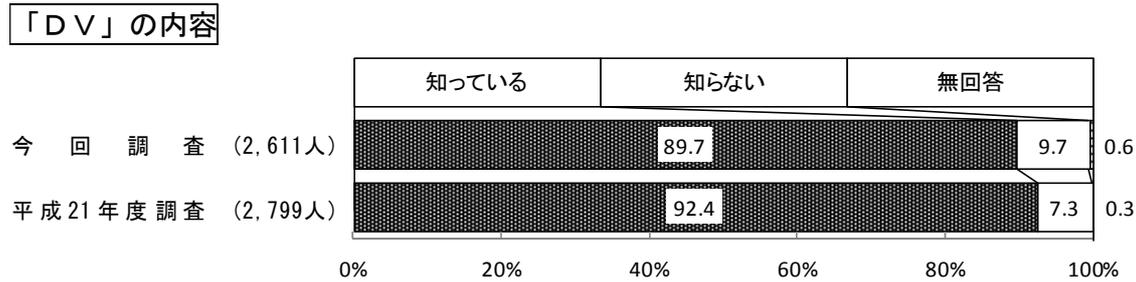
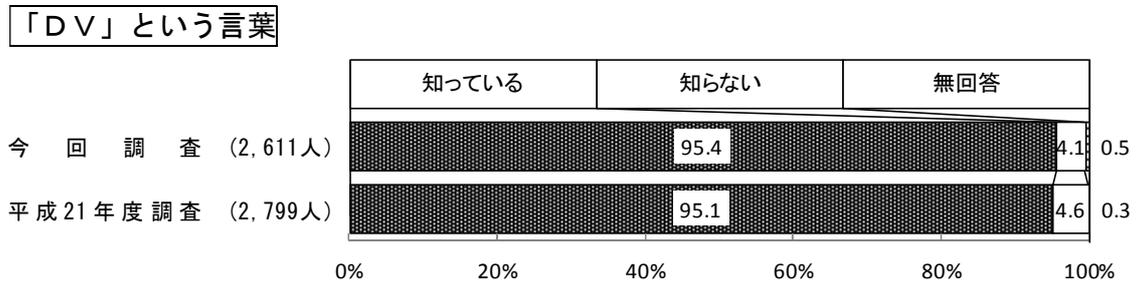
第2章 調査結果

1 暴力に対する認識について

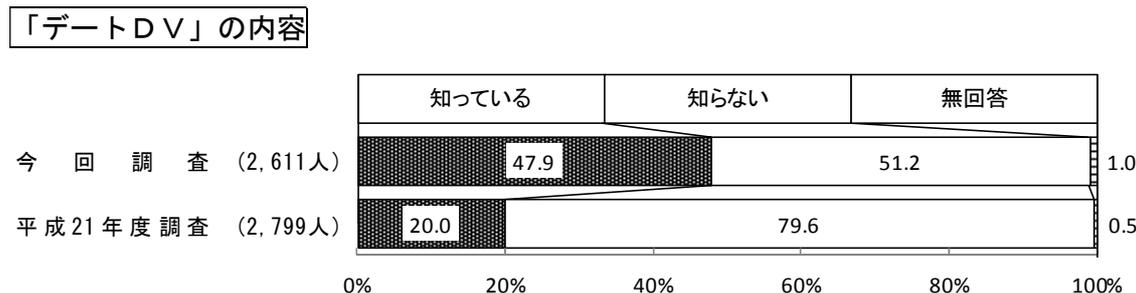
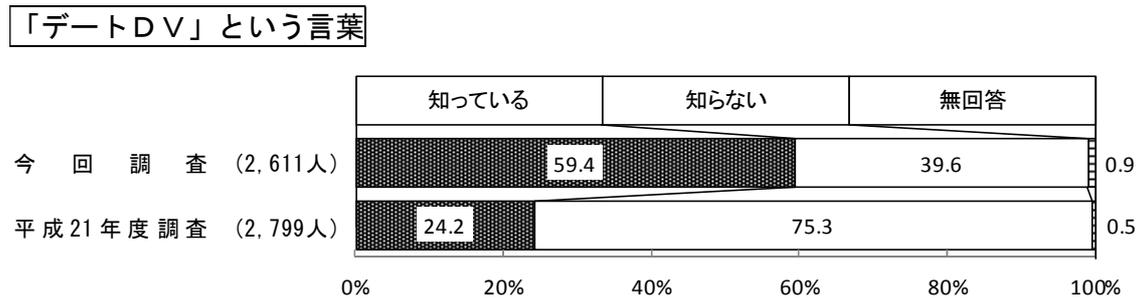
問1 「DV」および「デートDV」という言葉と内容の認知度

問1 あなたは「DV」、「デートDV」という言葉やその内容を知っていますか。それぞれの項目について当てはまる方に○をつけて下さい。

図表1 DVの認知度（時系列）



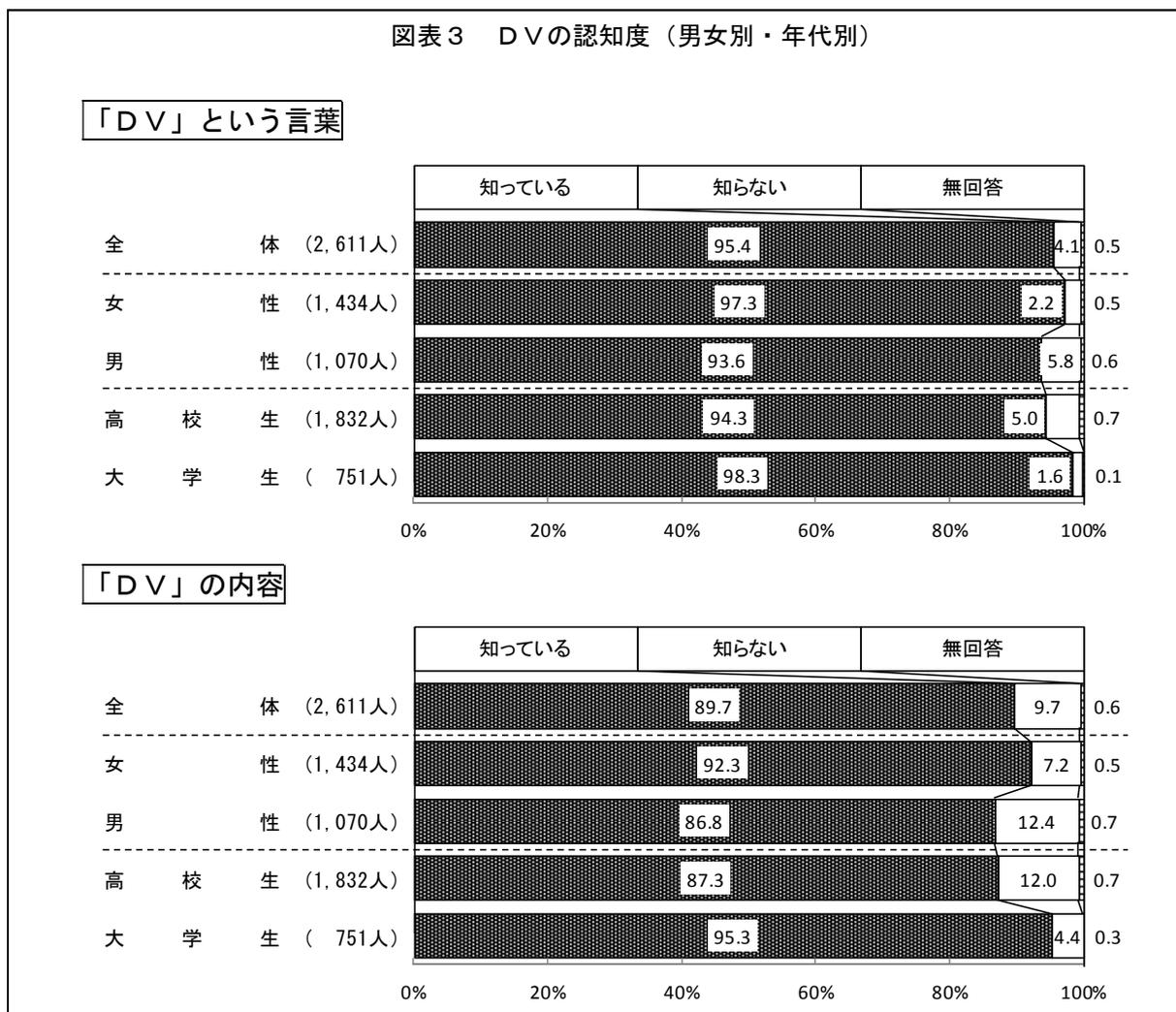
図表2 デートDVの認知度（時系列）



■全体の傾向

言葉を「知っている」と回答した割合は、「DV」95.4%に対し、「デートDV」は59.4%となっています。内容についても「知っている」と回答した割合は「DV」89.7%に対し、「デートDV」は47.9%となっています（図表1、2）。

平成21年度調査と比較すると、「DV」の言葉や内容の認知度には大きな変化はみられません。が、「デートDV」の言葉を「知っている」と回答した割合は24.2%→59.4%、デートDVの内容を「知っている」と回答した割合は20.0%→47.9%と、デートDVの認知度は大きく増加しています（図表1、2）。

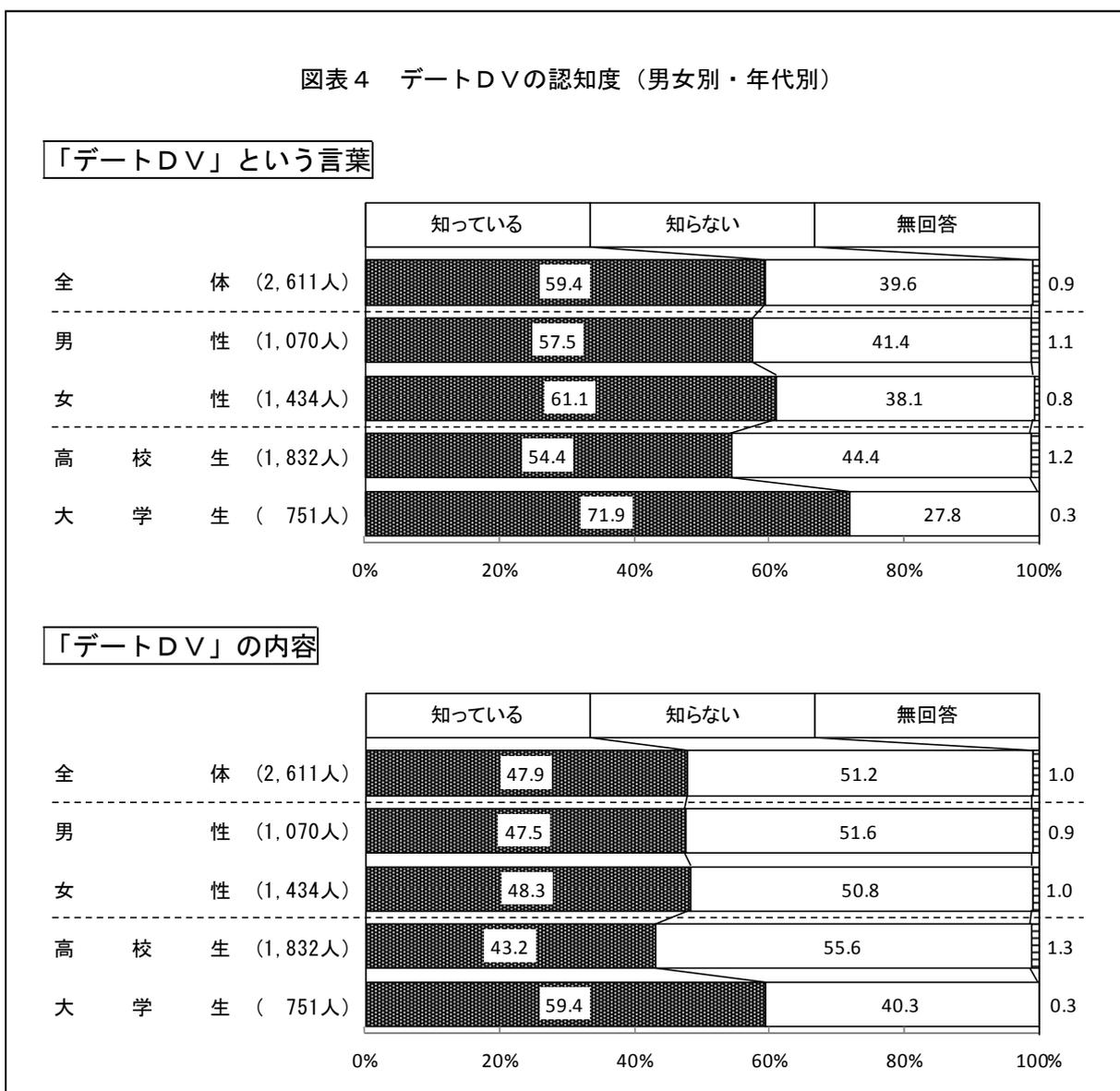


■男女別および年代別の傾向

「DV」という言葉について「知っている」と回答した割合は、男女ともに9割以上ですが、男性(93.6%)より女性(97.3%)で高くなっています。年代別では、高校生(94.3%)より大学生(98.3%)で高くなっています(図表3)。

「DV」の内容について「知っている」と回答した割合は、男性(86.8%)より女性(92.3%)で高くなっています。年代別では、高校生(87.3%)より大学生(95.3%)で高くなっています(図表3)。

図表4 デートDVの認知度（男女別・年代別）



■男女別および年代別の傾向

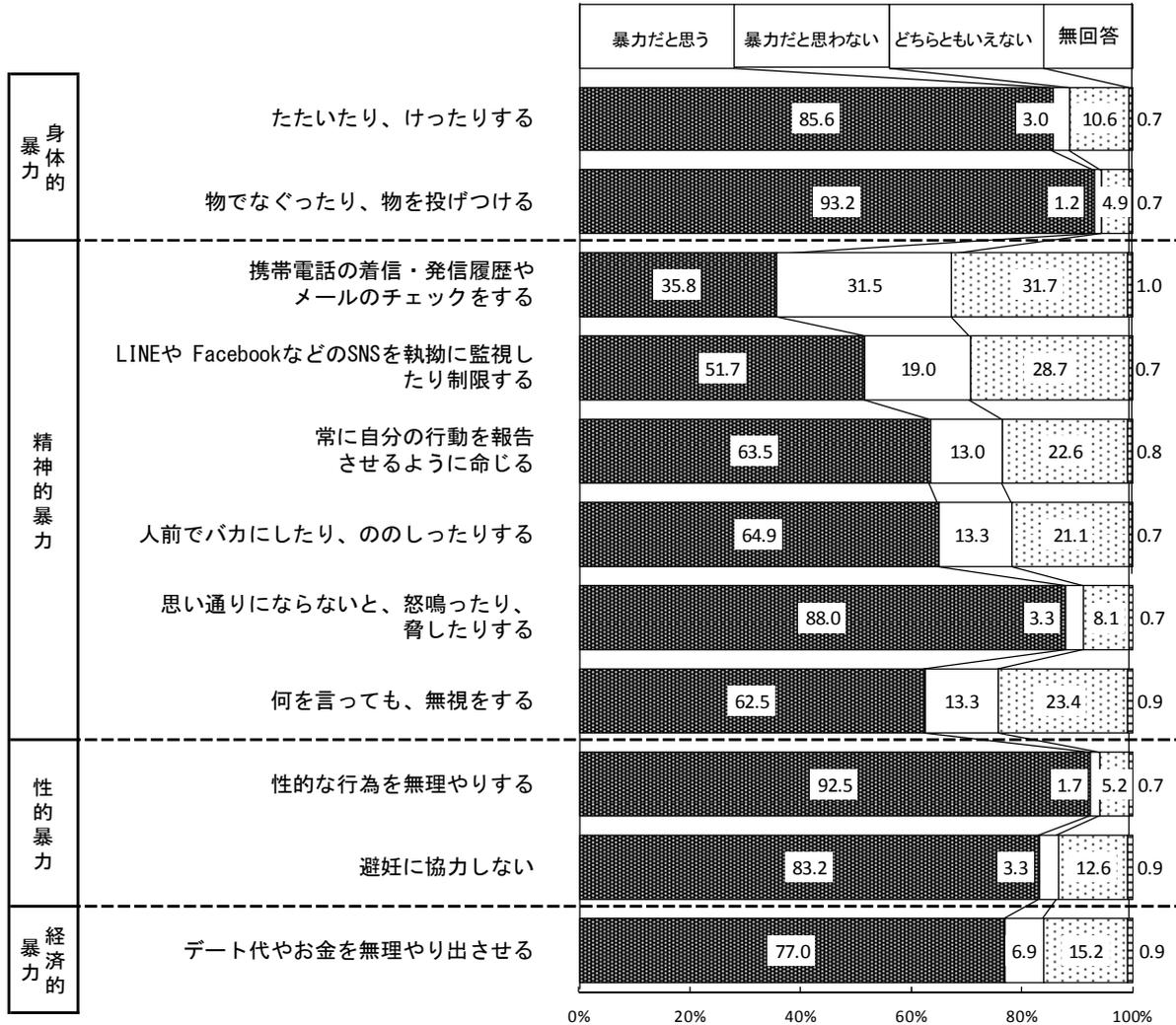
「デートDV」という言葉について「知っている」と回答した割合は、男女別では大きな差はみられません。年代別では、高校生（54.4%）より大学生（71.9%）で17.5ポイント高くなっています（図表4）。

「デートDV」の内容について「知っている」と回答した割合は、男女別では大きな差はみられません。年代別では、高校生（43.2%）より大学生（59.4%）で16.2ポイント高くなっています（図表4）。

問2 暴力の認識

問2 交際相手から以下のような行為があった場合、あなたはそれをどのように受け止めますか。それぞれの項目について、最も当てはまるところに○をつけてください。

図表5 暴力の認識 (n=2,611)



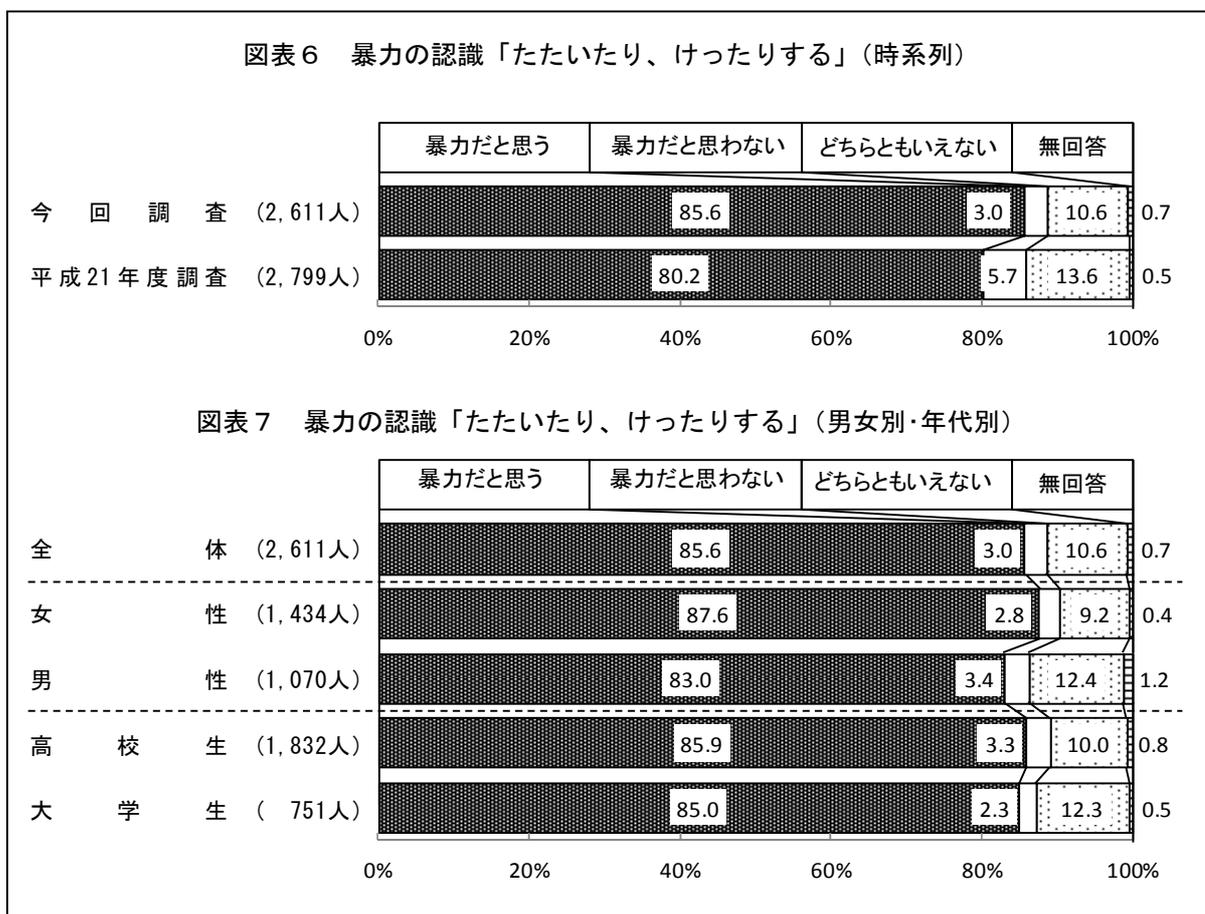
■全体の傾向

身体的暴力、性的暴力、経済的暴力については、「暴力だと思う」と回答した割合が75%を超えており、暴力としての認識が高い結果となっています。

精神的暴力の項目では、暴力と認識する割合に差がみられ、「思い通りにならないと、怒鳴ったり、脅したりする」を「暴力だと思う」と回答した割合は88.0%と特に高くなっている一方、「携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする」は35.8%となっており、他の項目に比べ低くなっています（図表5）。

①身体的暴力

1 たたいたり、けったりする



■前回調査との比較

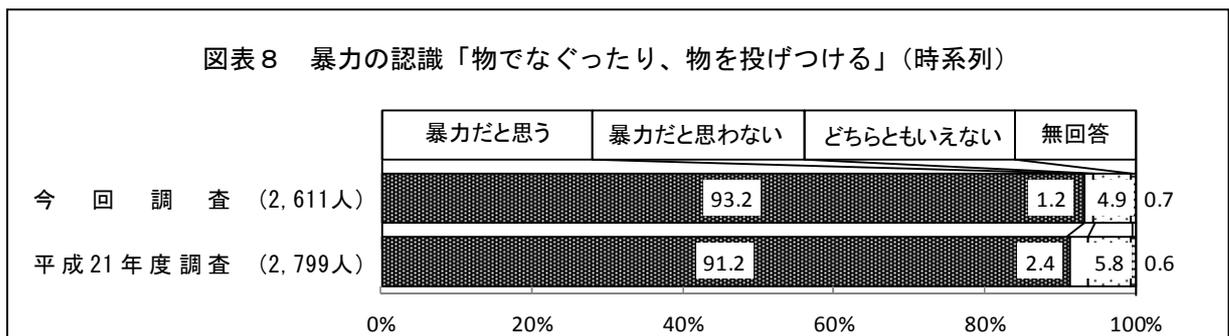
「たたいたり、けったりする」を「暴力だと思う」と回答した割合は、平成21年度調査と比較すると80.2%→85.6%と増加しており、多くの人が暴力であると認識しています(図表6)。

■男女別および年代別の傾向

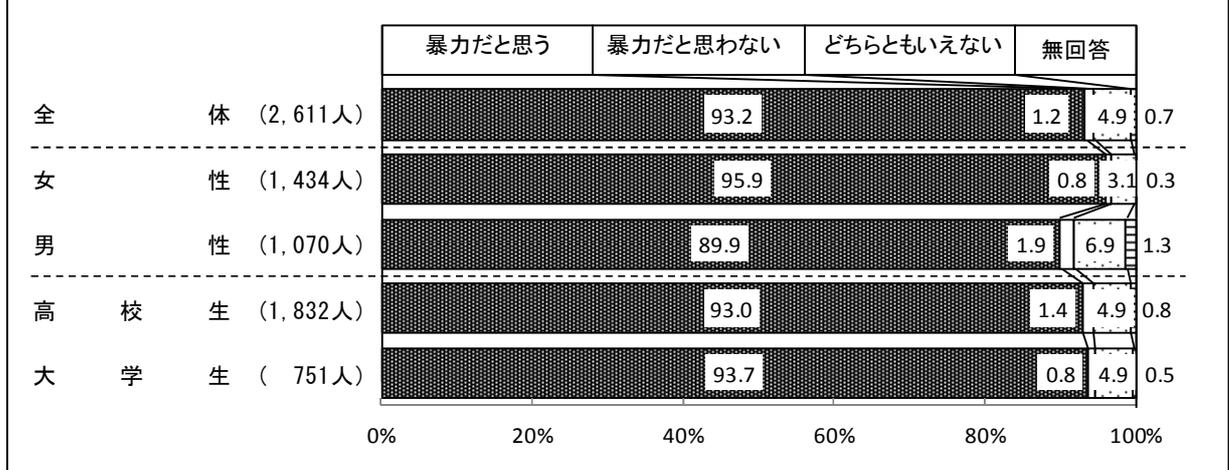
男女別では、男性(83.0%)より女性(87.6%)で高く、年代別では、大きな差はみられません(図表7)。

2 物でなぐったり、物を投げつける

図表8 暴力の認識「物でなぐったり、物を投げつける」(時系列)



図表9 暴力の認識「物でなぐったり、物を投げつける」(男女別・年代別)



■前回調査との比較

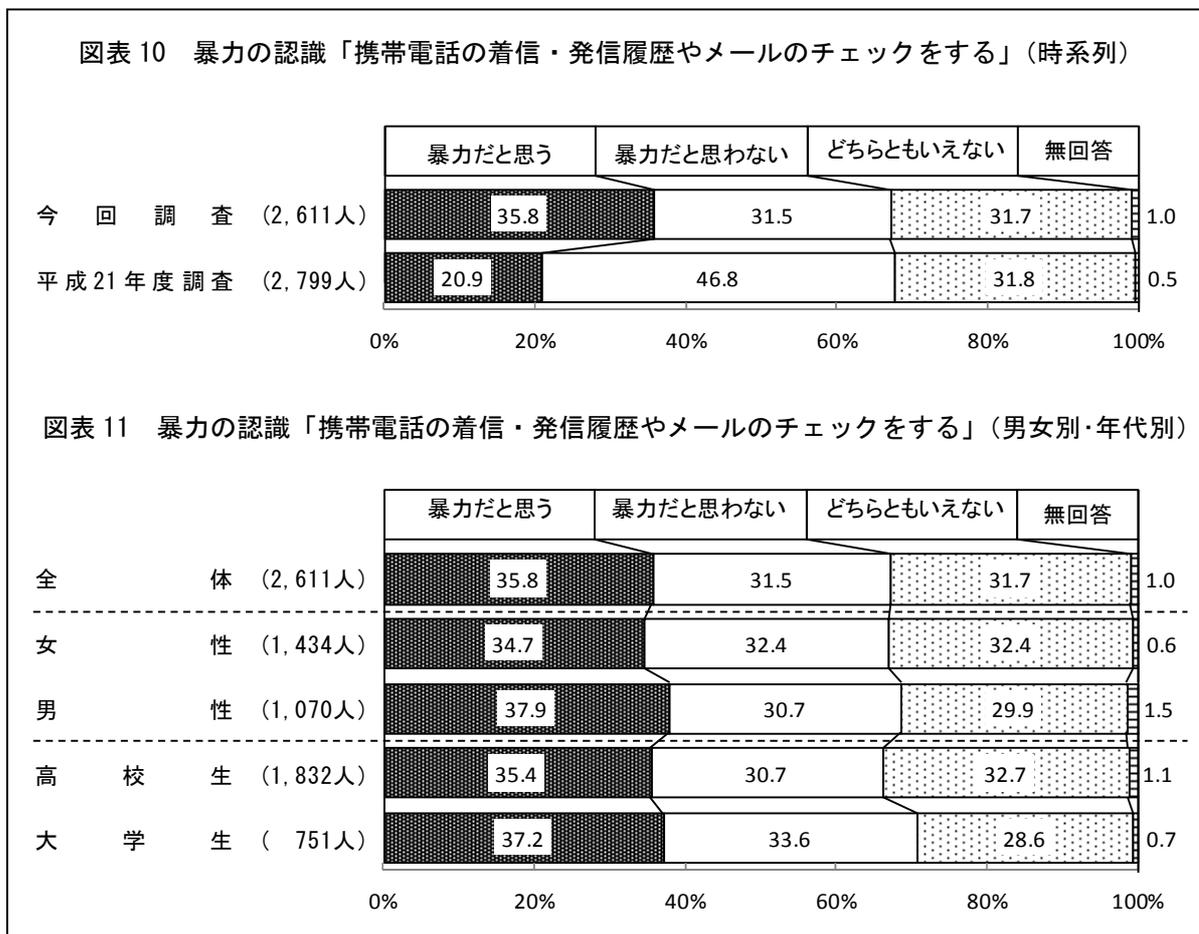
「物でなぐったり、物を投げつける」を「暴力だと思う」と回答した割合は、平成21年度調査と比較すると91.2%→93.2%と増加しており、多くの人が暴力であると認識しています(図表8)。

■男女別および年代別の傾向

男女別では、男性(89.9%)より女性(95.9%)で高く、年代別では、大きな差はみられません(図表9)。

②精神的暴力

3 携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする



■前回調査との比較

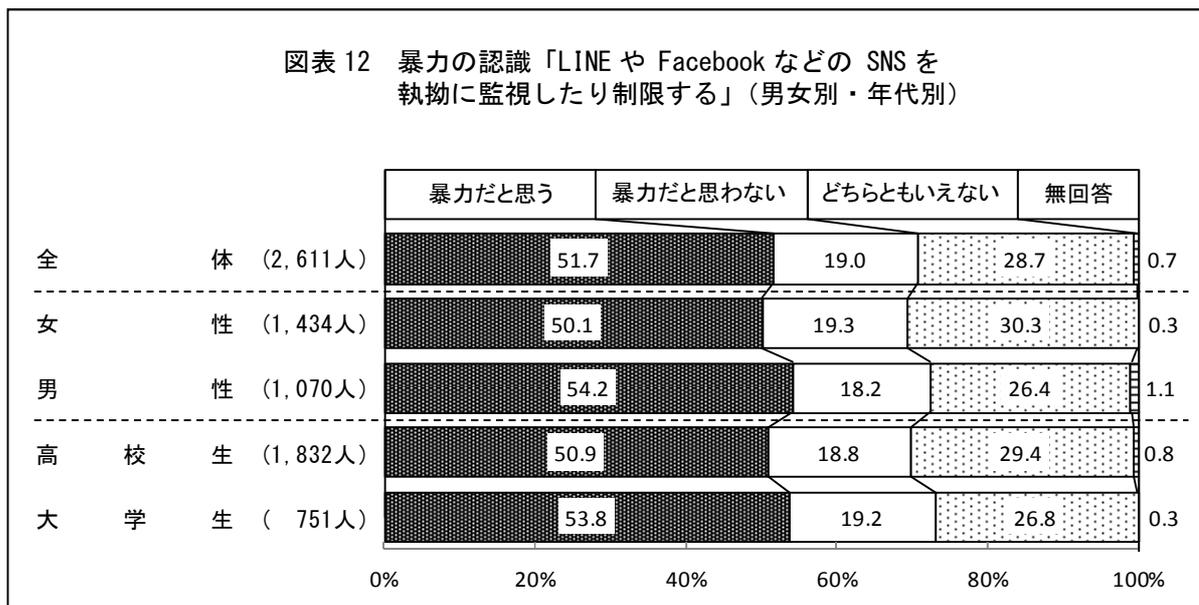
「携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする」を「暴力だと思う」と回答した割合は35.8%となっており、他の行為に比べると暴力と認識する人は少ない状況です。

平成21年度調査と比較すると、20.9%→35.8%と14.9ポイント増加しています(図表10)。

■男女別および年代別の傾向

男女別や年代別では、大きな差はみられません(図表11)。

4 LINE や Facebook などの SNS を執拗に監視したり制限する



■全体の傾向

「LINE や Facebook などの SNS を執拗に監視したり制限する」を「暴力だと思う」と回答した割合は 51.7%となっています (図表 12)。

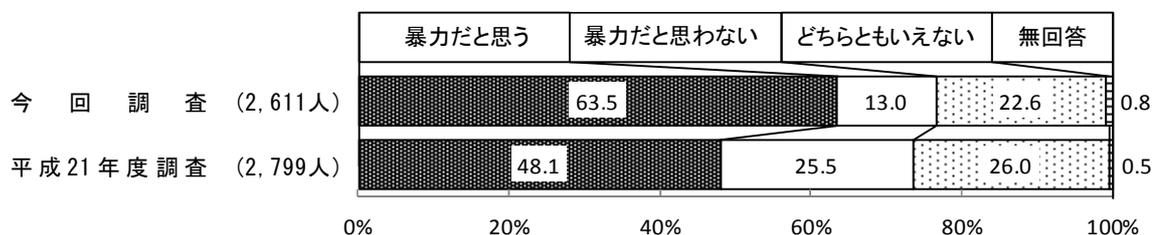
■男女別および年代別の傾向

男女別では、女性 (50.1%) より男性 (54.2%) で高く、また、「どちらともいえない」は女性 (30.3%) で高くなっています。

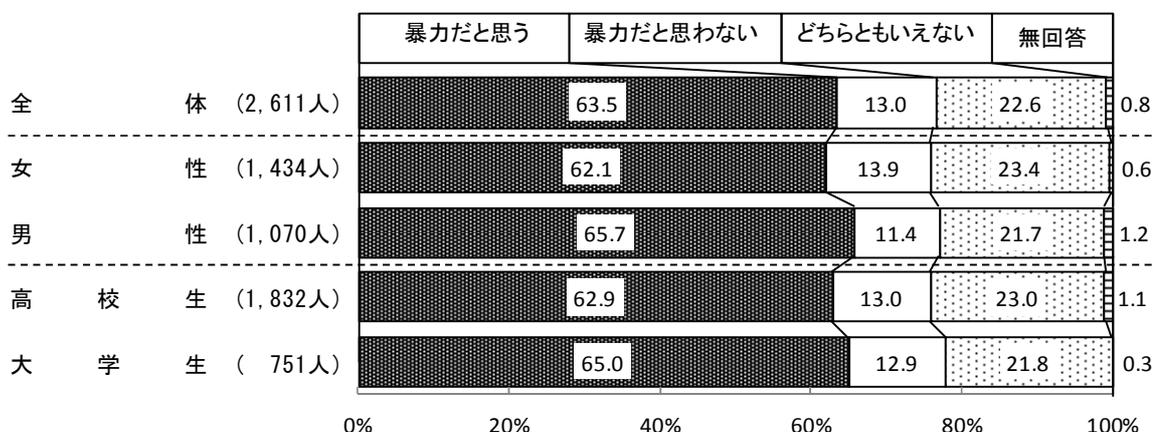
年代別では、大きな差はみられません (図表 12)。

5 常に自分の行動を報告させるように命じる

図表 13 暴力の認識「常に自分の行動を報告させるように命じる」(時系列)



図表 14 暴力の認識「常に自分の行動を報告させるように命じる」(男女別・年代別)



■前回調査との比較

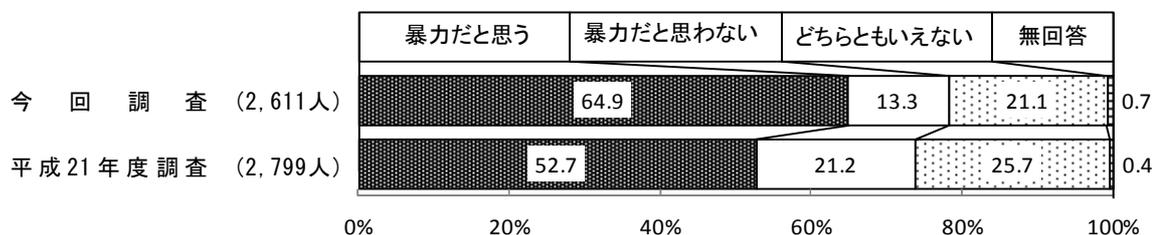
「常に自分の行動を報告させるように命じる」を「暴力だと思う」と回答した割合は、平成21年度調査と比較すると、48.1%→63.5%と15.4ポイント増加しています(図表13)。

■男女別および年代別の傾向

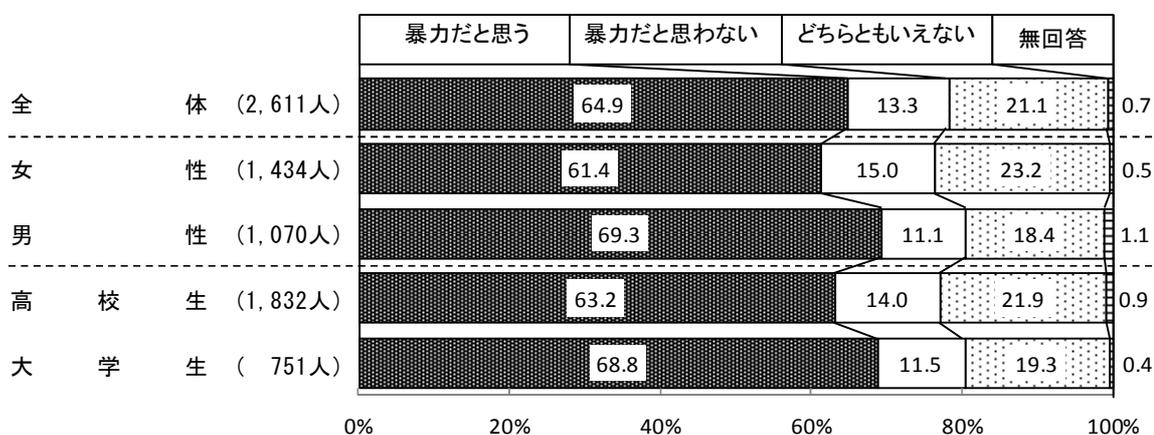
男女別や年代別では、大きな差はみられません(図表14)。

6 人前でバカにしたり、ののしったりする

図表 15 暴力の認識「人前でバカにしたり、ののしったりする」(時系列)



図表 16 暴力の認識「人前でバカにしたり、ののしったりする」(男女別・年代別)



■前回調査との比較

「人前でバカにしたり、ののしったりする」を「暴力だと思う」と回答した割合は、平成21年度調査と比較すると、52.7%→64.9%と12.2ポイント増加しています(図表15)。

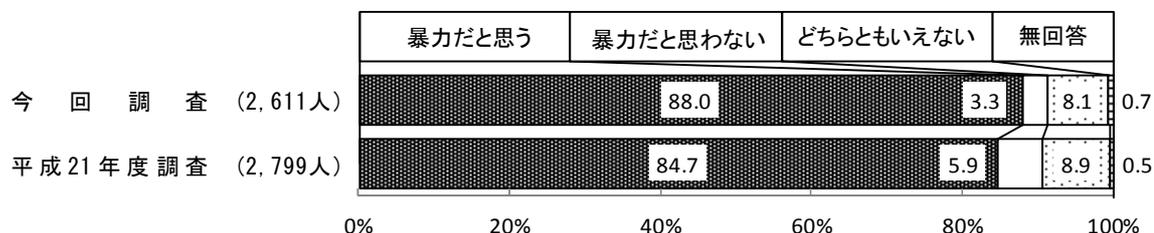
■男女別および年代別の傾向

男女別では、女性(61.4%)より男性(69.3%)で高く、「暴力だと思わない」や「どちらともいえない」は女性で高くなっています。

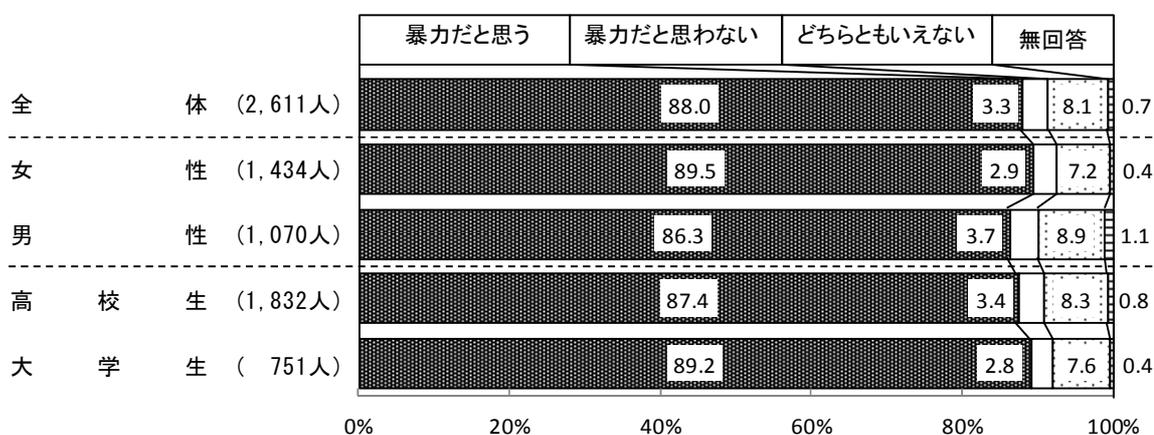
年代別では、高校生(63.2%)より大学生(68.8%)で高くなっています(図表16)。

7 思い通りにならないと、怒鳴ったり、脅したりする

図表 17 暴力の認識「思い通りにならないと、怒鳴ったり、脅したりする」(時系列)



図表 18 暴力の認識「思い通りにならないと、怒鳴ったり、脅したりする」(男女別・年代別)



■前回調査との比較

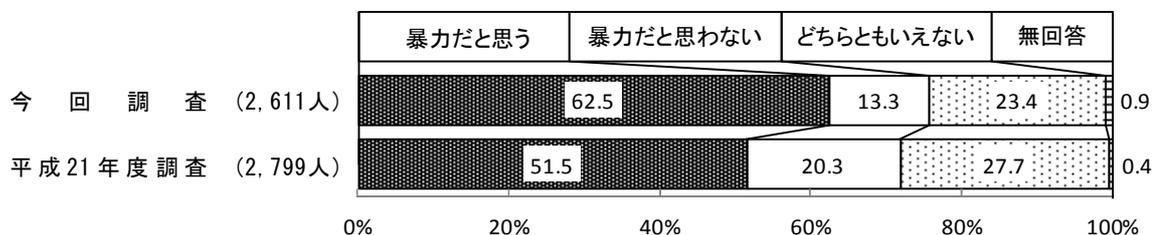
「思い通りにならないと、怒鳴ったり、脅したりする」を「暴力だと思う」と回答した割合は、平成21年度調査と比較すると84.7%→88.0%と増加しており、多くの方が暴力だと認識しています(図表17)。

■男女別および年代別の傾向

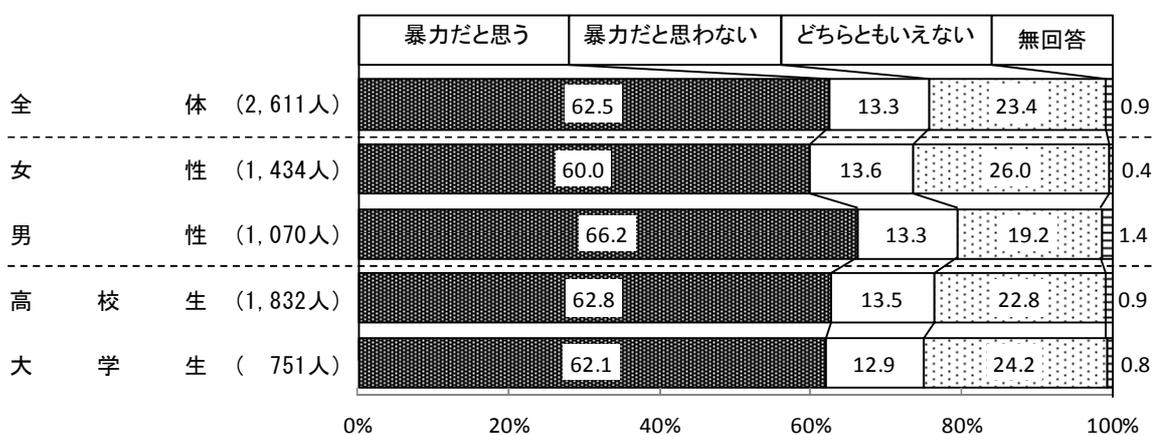
男女別では、男性(86.3%)より女性(89.5%)で高く、年代別では、大きな差はみられません(図表18)。

8 何を言っても、無視をする

図表 19 暴力の認識「何を言っても、無視をする」(時系列)



図表 20 暴力の認識「何を言っても、無視をする」(男女別・年代別)



■前回調査との比較

「何を言っても、無視をする」を「暴力だと思う」と回答した割合は、平成 21 年度調査と比較すると、51.5%→62.5%と 11 ポイント増加しています (図表 19)。

■男女別および年代別の傾向

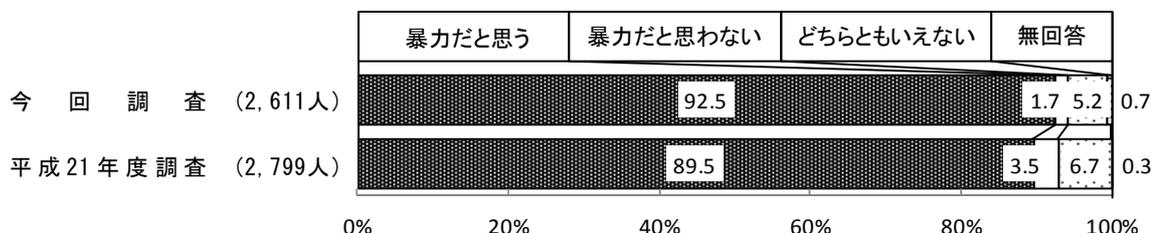
男女別では、女性 (60.0%) より男性 (66.2%) で高く、また、「どちらともいえない」は女性 (26.0%) で高くなっています。

年代別では、大きな差はみられません (図表 20)。

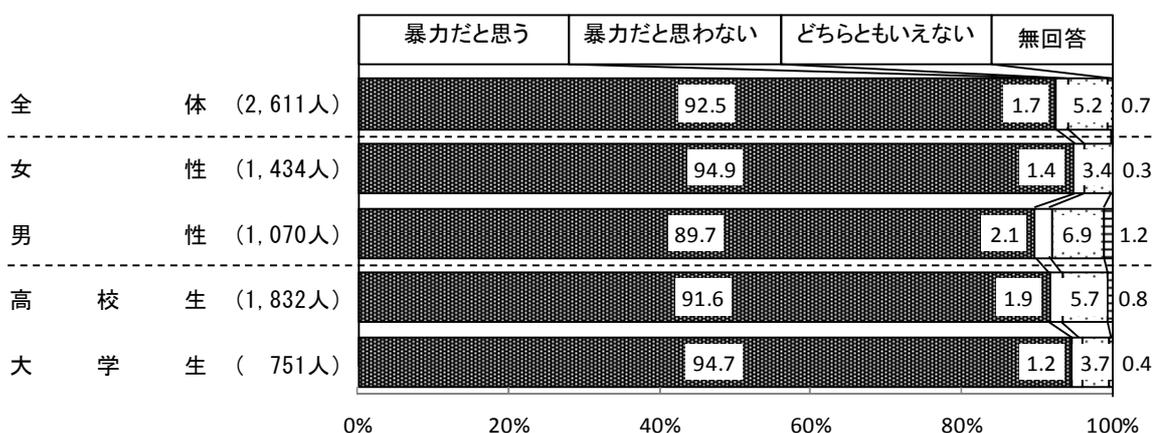
③性的暴力

9 性的な行為を無理やりする

図表 21 暴力の認識「性的な行為を無理やりする」(時系列)



図表 22 暴力の認識「性的な行為を無理やりする」(男女別・年代別)



■前回調査との比較

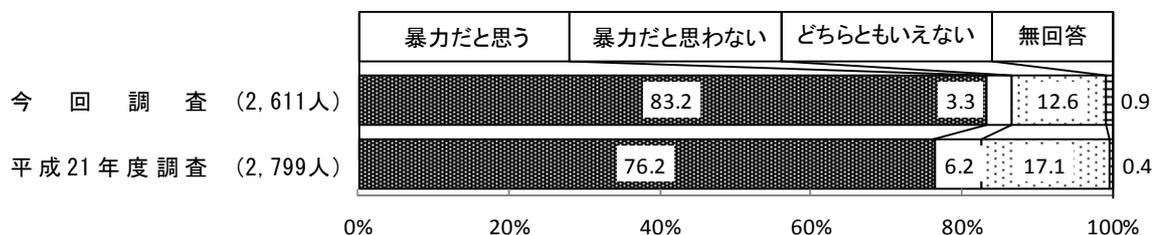
「性的な行為を無理やりする」を「暴力だと思う」と回答した割合は、平成21年度調査と比較すると、89.5%→92.5%と増加しており、多くの人が暴力だと認識しています(図表21)。

■男女別および年代別の傾向

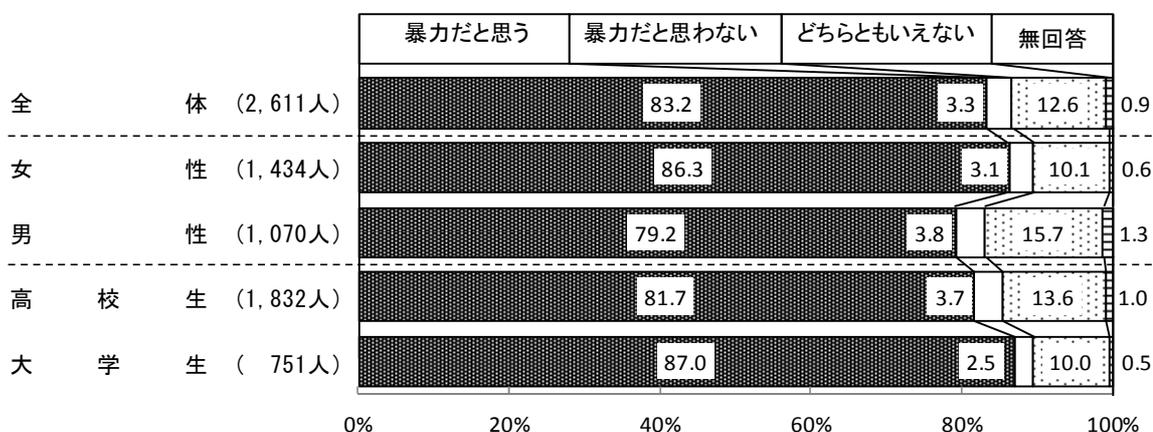
男女別では、男性(89.7%)より女性(94.9%)で高く、年代別では、高校生(91.6%)より大学生(94.7%)で高くなっています(図表22)。

10 避妊に協力しない

図表 23 暴力の認識「避妊に協力しない」(時系列)



図表 24 暴力の認識「避妊に協力しない」(男女別・年代別)



■前回調査との比較

「避妊に協力しない」を「暴力だと思う」と回答した割合は、平成21年度調査と比較すると、76.2%→83.2%と増加しており、8割以上の人が暴力だと認識しています(図表23)。

■男女別の傾向

男女別では、男性(79.2%)より女性(86.3%)で高く、また、「どちらともいえない」は男性(15.7%)で高くなっています(図表24)。

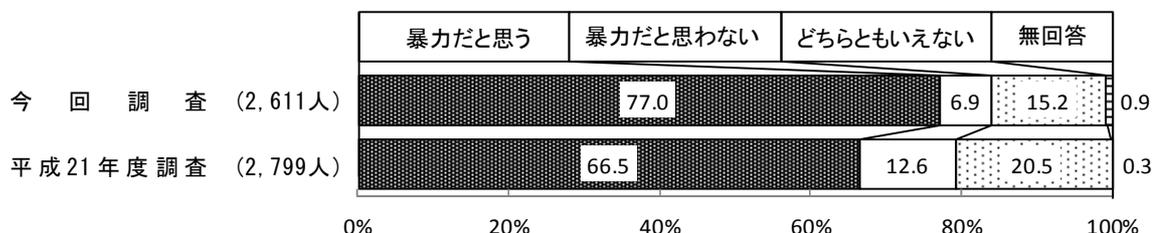
■年代別の傾向

年代別では、高校生(81.7%)より大学生(87.0%)で高く、また、「どちらともいえない」は高校生(13.6%)で高くなっています(図表24)。

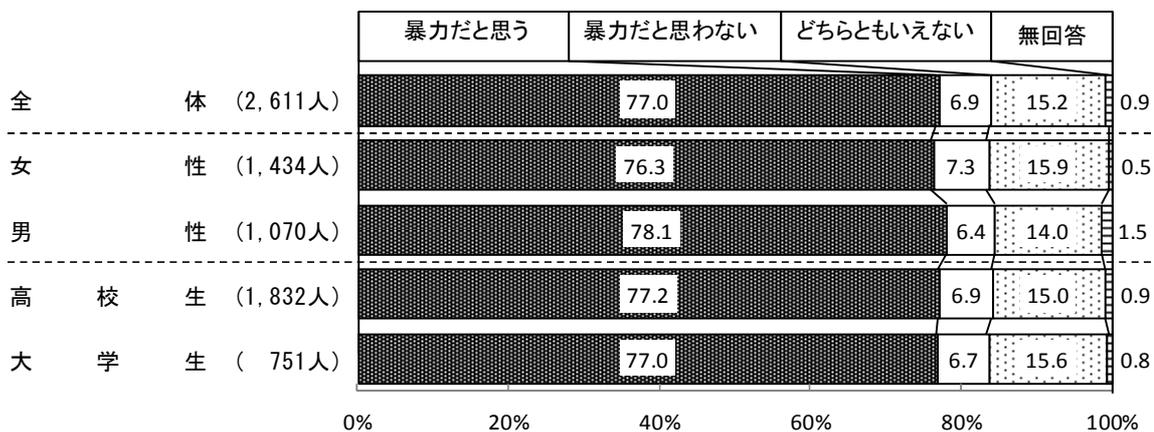
④経済的暴力

11 デート代やお金を無理やり出させる

図表 25 暴力の認識「デート代やお金を無理やり出させる」(時系列)



図表 26 暴力の認識「デート代やお金を無理やり出させる」(男女別・年代別)



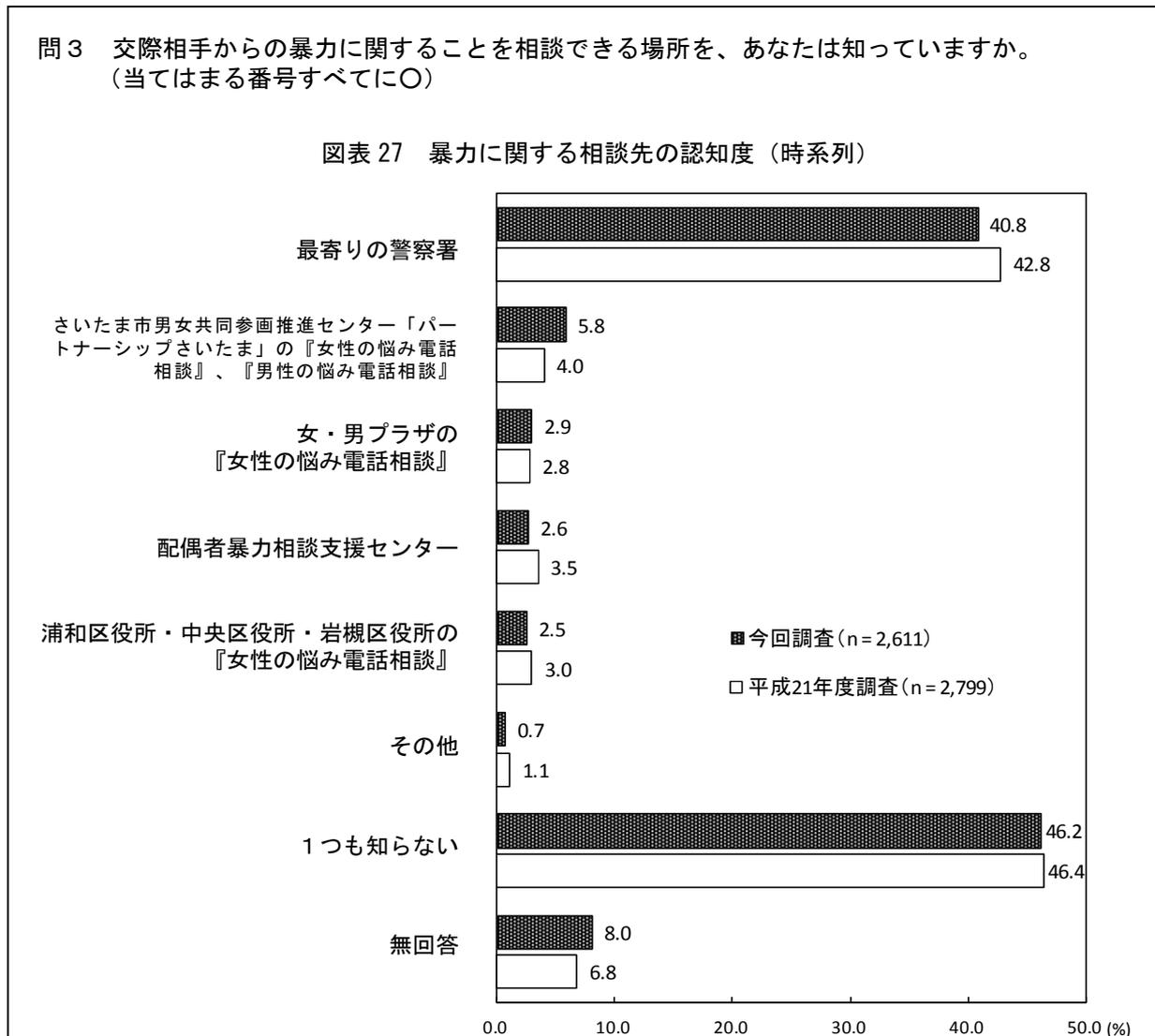
■前回調査との比較

「デート代やお金を無理やり出させる」を「暴力だと思う」と回答した割合は、平成 21 年度調査と比較すると、66.5%→77.0%と 10.5 ポイント増加しています (図表 25)。

■男女別および年代別の傾向

男女別や年代別では、大きな差はみられません (図表 26)。

問3 暴力に関する相談先の認知度

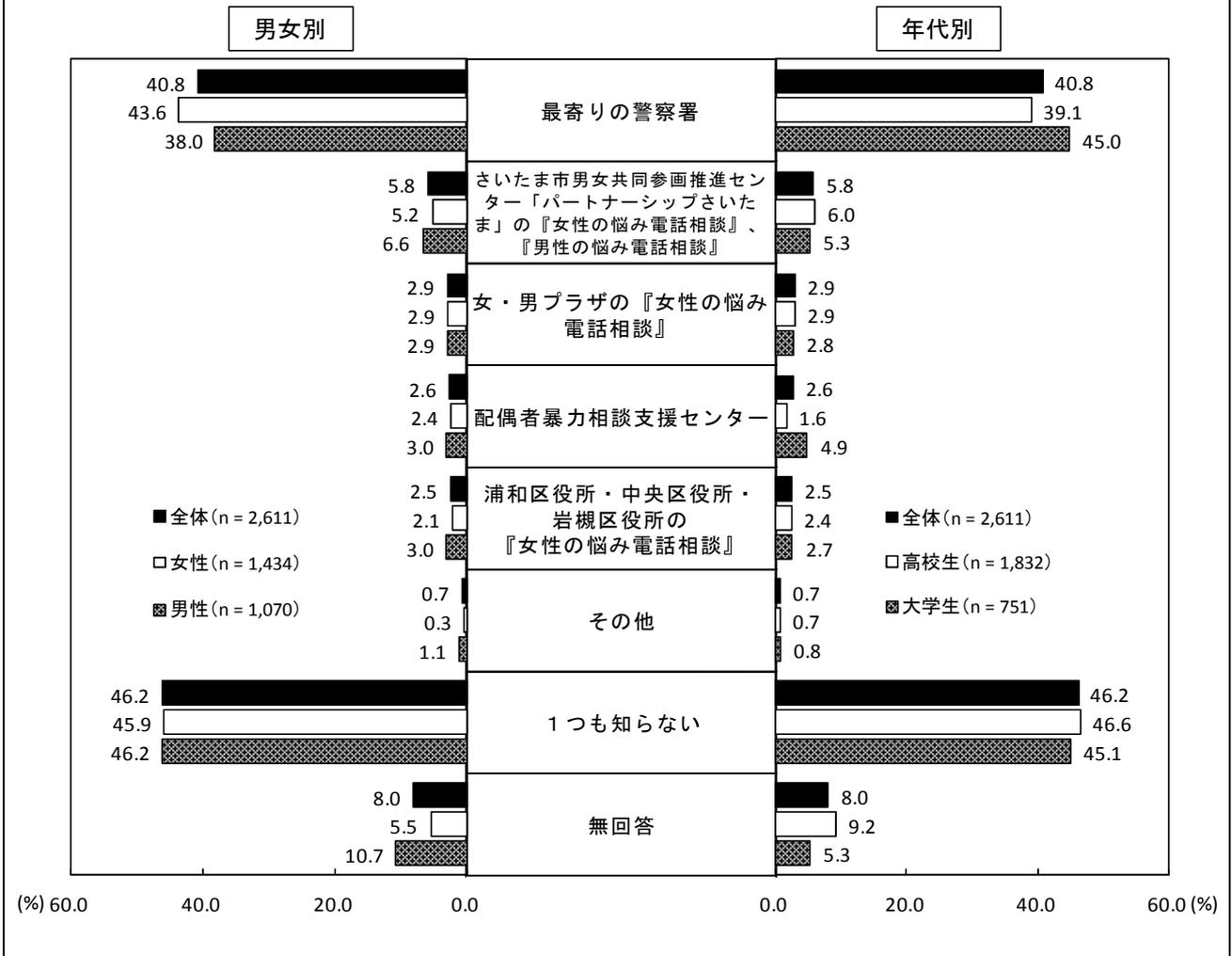


■全体の傾向

交際相手からの暴力に関することを相談できる場所を聞いたところ、全体の46.2%が相談先を「1つも知らない」と回答しており、これは平成21年度調査とほぼ同様の結果となっています（図表27）。

知っている相談先としては、「最寄りの警察署」が40.8%と最も多く挙げられ、大きく離れて「さいたま市男女共同参画推進センター「パートナーシップさいたま」の『女性の悩み電話相談』、『男性の悩み電話相談』」などが続いています。なお、「さいたま市男女共同参画推進センター「パートナーシップさいたま」の『女性の悩み電話相談』、『男性の悩み電話相談』」については、平成21年度調査と比較すると、4.0%→5.8%と増加しています（図表27）。

図表 28 暴力に関する相談先の認知度（男女別・年代別）



■男女別の傾向

男女別では「最寄りの警察署」は男性（38.0%）より女性（43.6%）で高くなっています。また、「さいたま市男女共同参画推進センター「パートナーシップさいたま」の『女性の悩み電話相談』、『男性の悩み電話相談』」は女性（5.2%）より男性（6.6%）でやや高くなっています（図表 28）。

■年代別の傾向

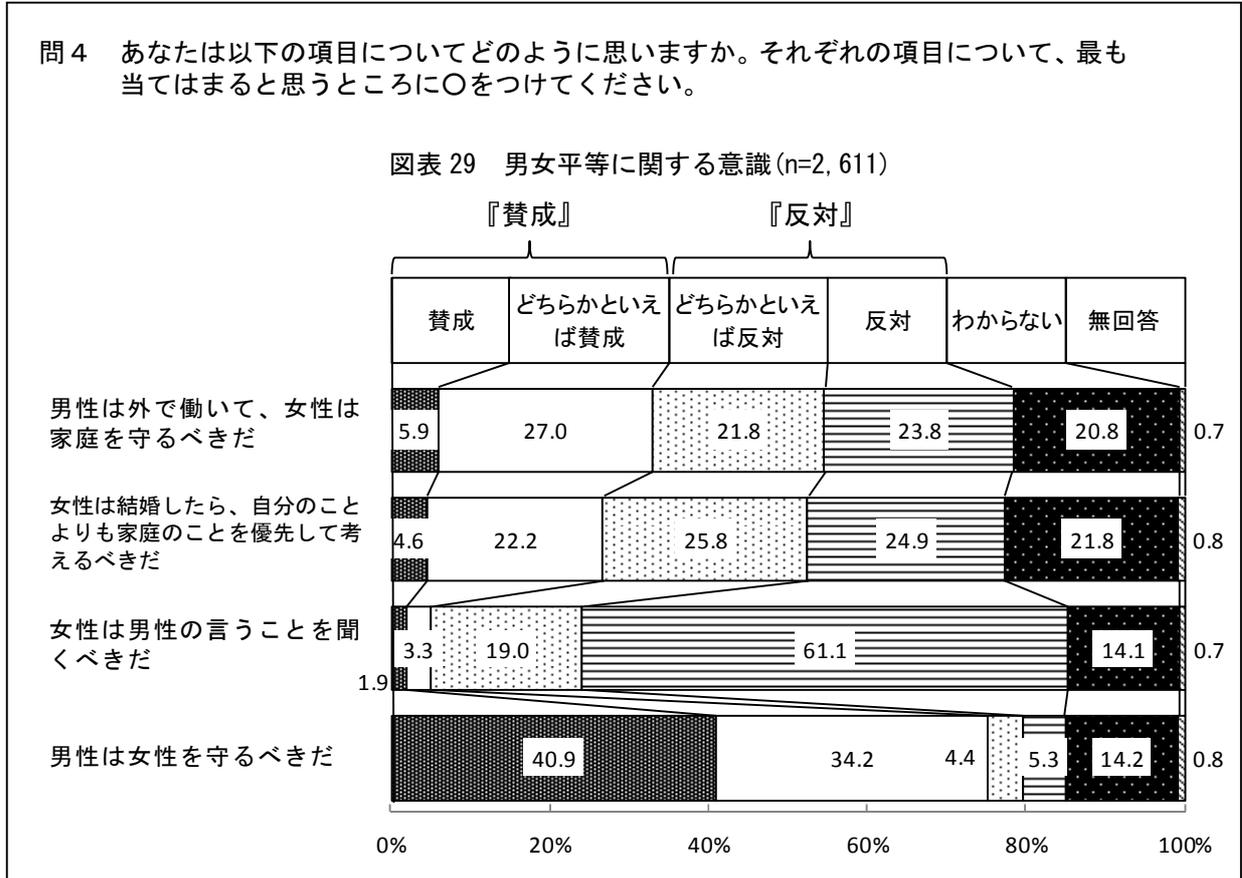
年代別では「最寄りの警察署」（高校生 39.1%、大学生 45.0%）や「配偶者暴力相談支援センター」（高校生 1.6%、大学生 4.9%）は大学生で高くなっています（図表 28）。

■「その他」の回答

分類	主な内容	件数
友人	○友達（高校1年男性、高校1年女性、など）	4
家族	○家族（高校1年男性） ○お母さん（高校3年男性）	2
学校・先生	○中学、高校の相談室（高校1年女性）	1

2 男女平等に関する意識について

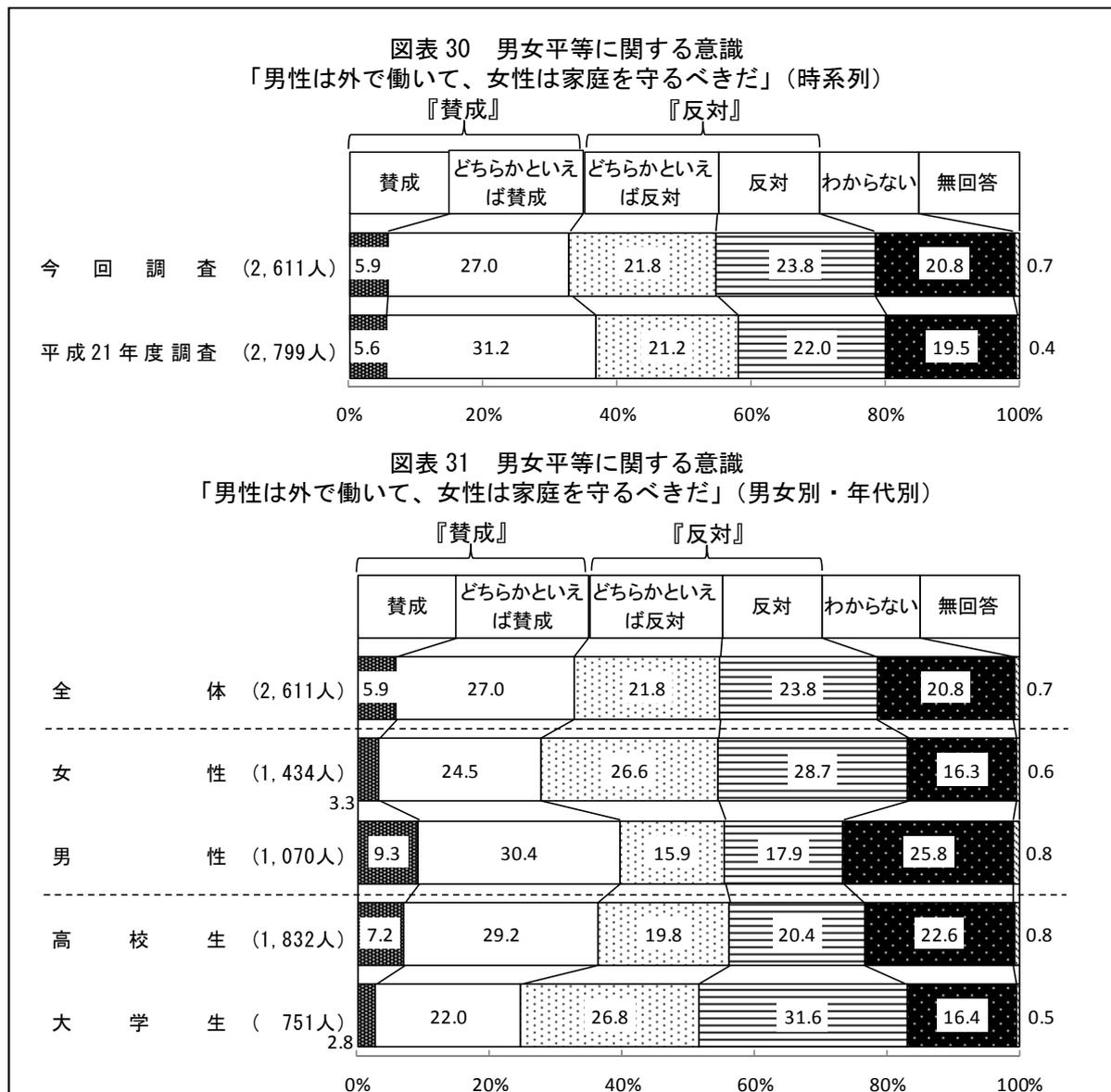
問4 男女平等に関する意識



■全体の傾向

男女平等に関する意識について尋ねた4つの項目の中で、『反対』（「反対」＋「どちらかといえば反対」の合計）が『賛成』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」の合計）を上回るのは、「男性は外で働いて、女性は家庭を守るべきだ」（45.6%）、「女性は結婚したら、自分のことよりも家庭のことを優先して考えるべきだ」（50.7%）、「女性は男性の言うことをきくべきだ」（80.1%）となっています。一方、「男性は女性を守るべきだ」という考え方については、『賛成』（75.1%）が『反対』（9.7%）を大きく上回っています（図表29）。

ア 男性は外で働いて、女性は家庭を守るべきだ



■ 前回調査との比較

平成21年度調査と比較すると、『賛成』は36.8%→32.9%と減少しています(図表30)。

■ 男女別の傾向

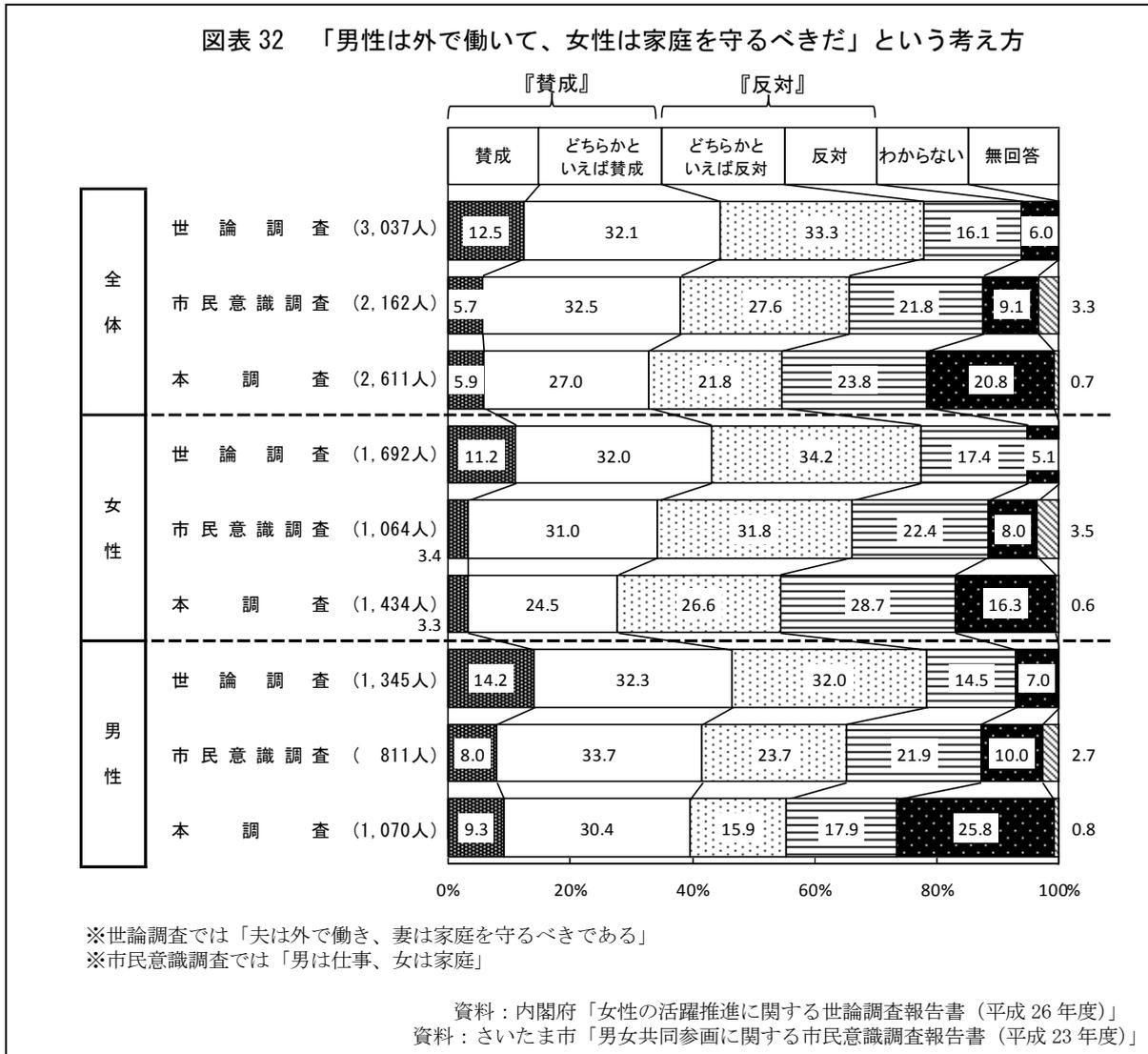
男女別では、『反対』は男性(33.8%)より女性(55.3%)で21.5ポイント高くなっています(図表31)。

■ 年代別の傾向

年代別では、『反対』は高校生(40.2%)より大学生(58.4%)で18.2ポイント高くなっています(図表31)。

＜世論調査および市民意識調査との比較＞

「男性は外で働いて、女性は家庭を守るべきだ」という考え方について、内閣府の「女性の活躍推進に関する世論調査」およびさいたま市の「男女共同参画に関する市民意識調査」の結果と比較しました。

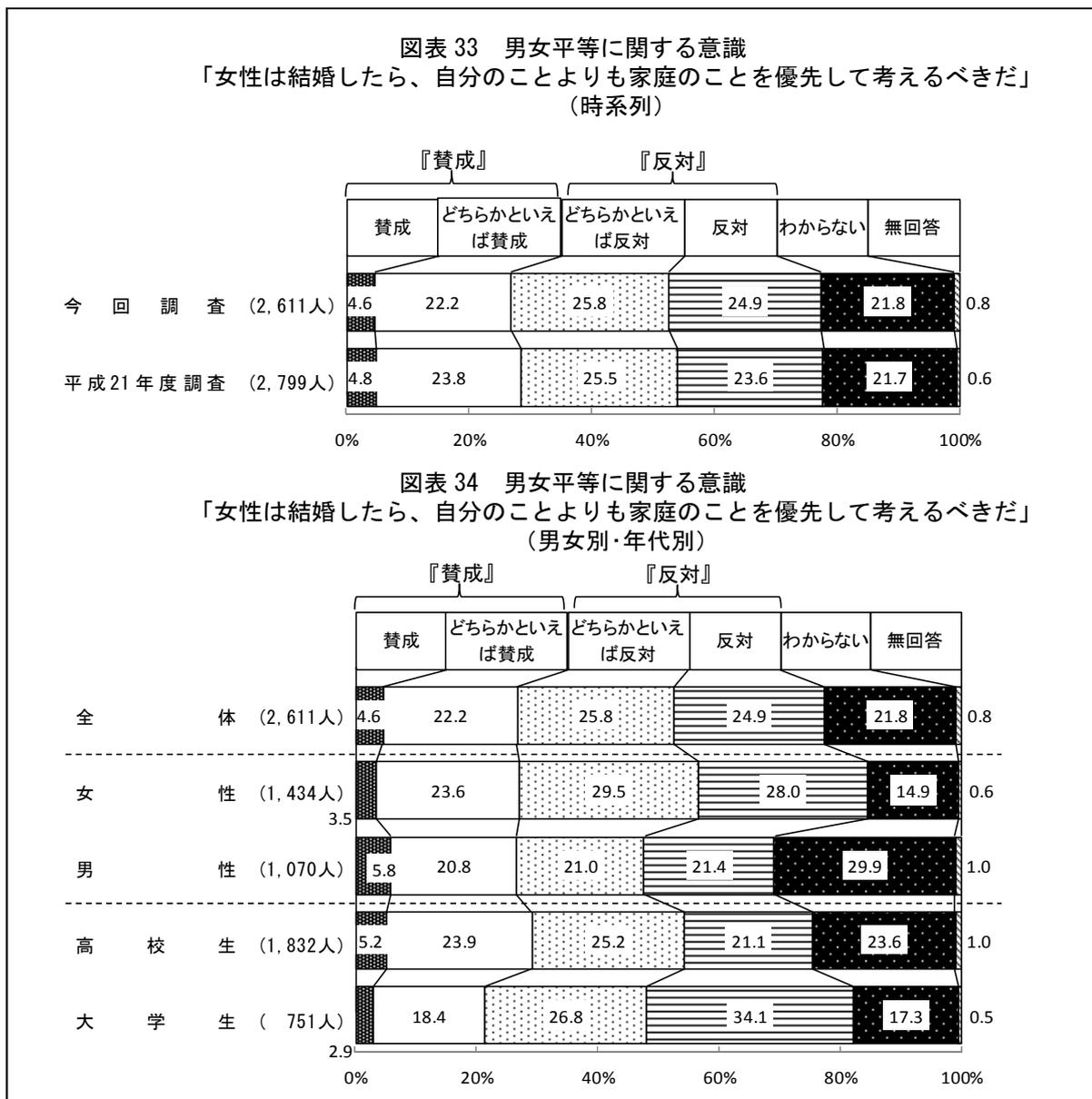


■全体の傾向および男女別の傾向

全体では、「男性は外で働いて、女性は家庭を守るべきだ」という考え方に『反対』の割合は、世論調査、市民意識調査ともに49.4%、本調査が45.6%となっており、各調査とも『反対』が『賛成』を上回っています。また、『反対』の割合は、世論調査や市民意識調査と比較すると本調査が最も低くなっています（図表32）。

男女別では、女性は各調査とも『反対』が『賛成』を上回っています。男性では、『反対』の割合は世論調査や市民意識調査と比較すると、本調査では33.8%と最も低くなっています（図表32）。

イ 女性は結婚したら、自分のことよりも家庭のことを優先して考えるべきだ



■前回調査との比較

平成 21 年度調査と比較すると、『賛成』、『反対』とも大きな変化はみられません (図表 33)。

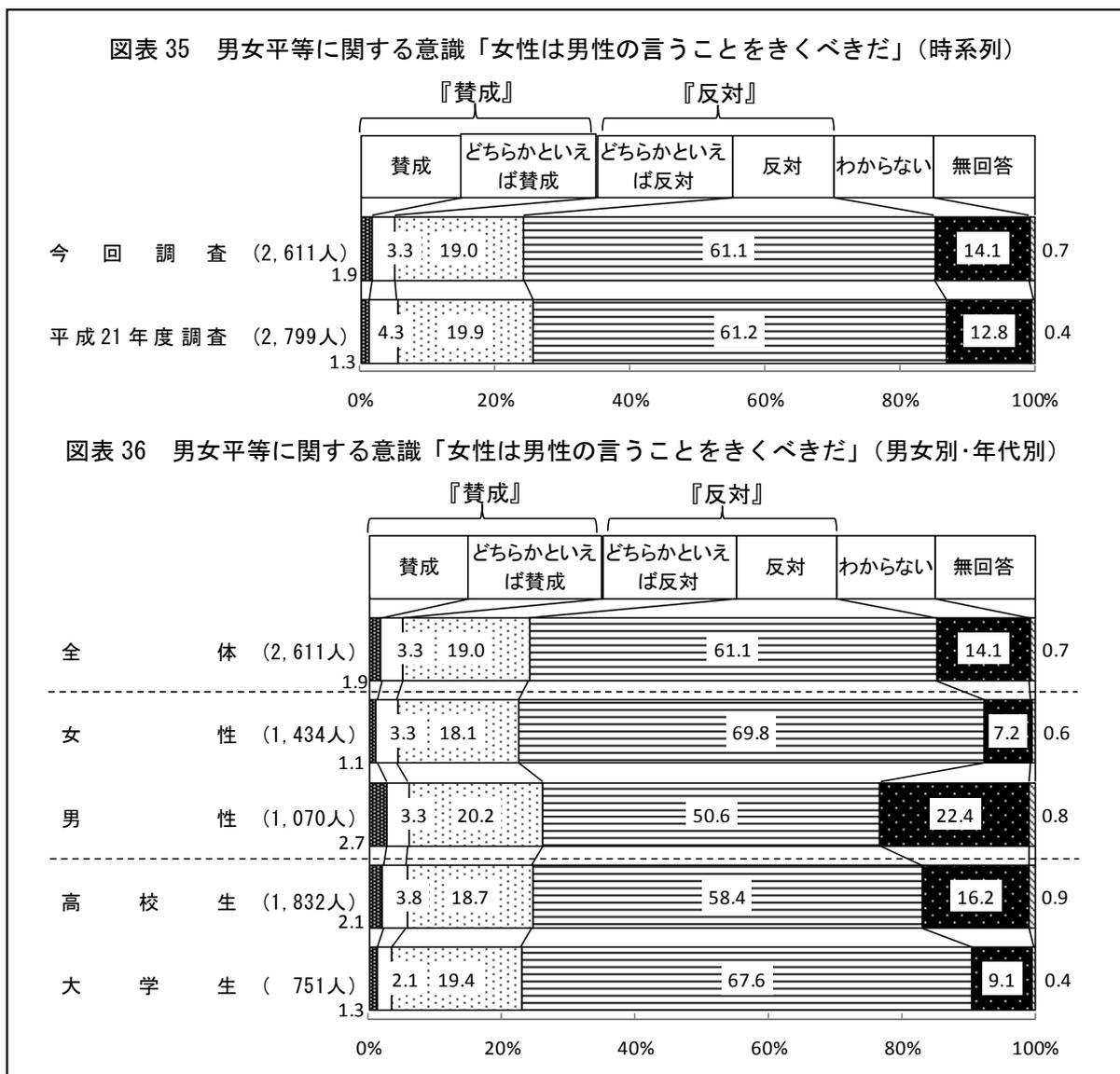
■男女別の傾向

男女別では、『反対』は男性 (42.4%) より女性 (57.5%) で 15.1 ポイント高くなっています (図表 34)。

■年代別の傾向

年代別では、『反対』は、高校生 (46.3%) より大学生 (60.9%) で 14.6 ポイント高くなっています (図表 34)。

ウ 女性は男性の言うことをきくべきだ



■ 前回調査との比較

平成 21 年度調査と比較すると、大きな変化はみられず、『反対』は8割となっています(図表 35)。

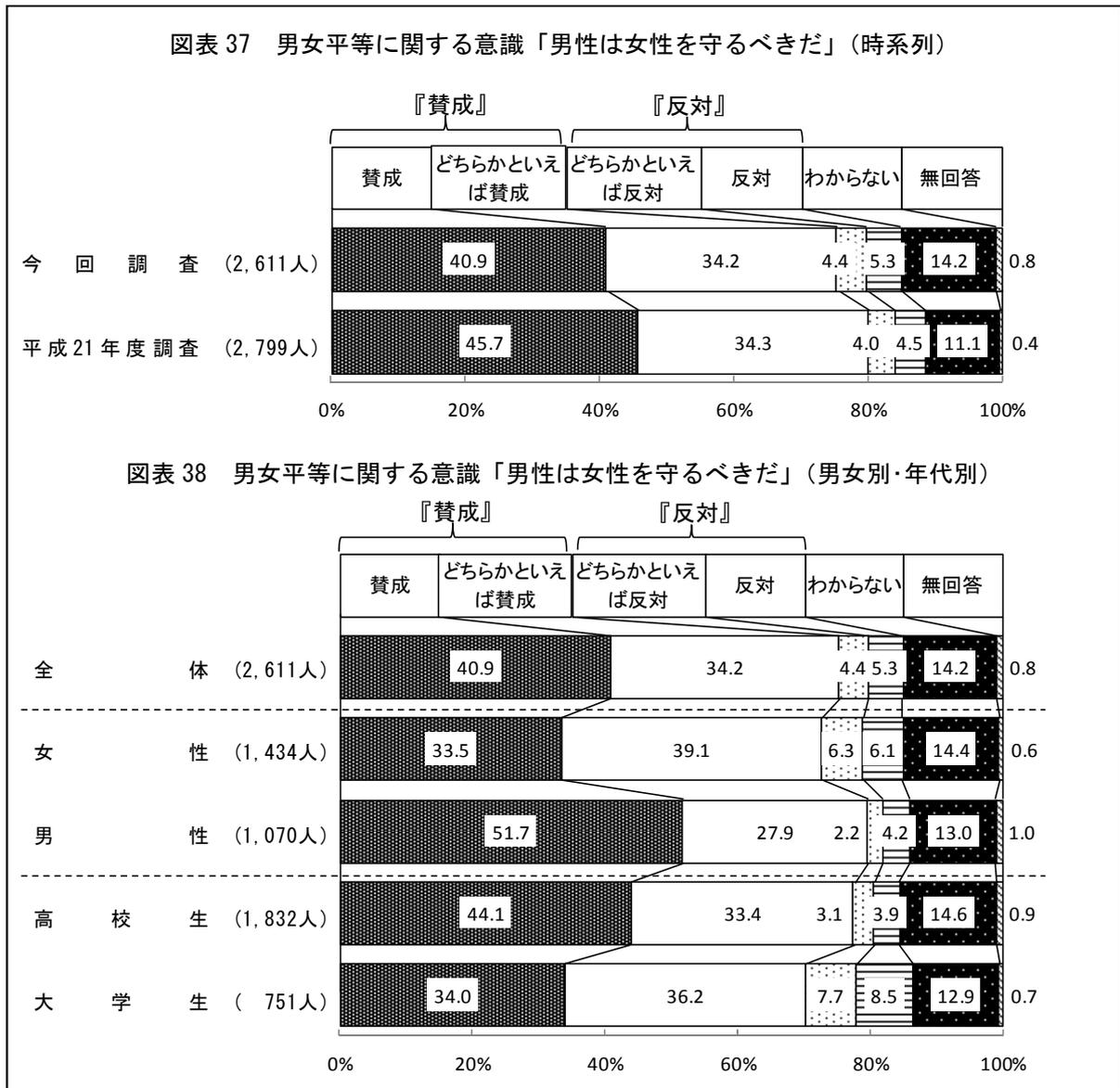
■ 男女別の傾向

男女別では、『反対』は男性(70.8%)より女性(87.9%)で17.1ポイント高くなっています(図表 36)。

■ 年代別の傾向

年代別では、『反対』は、高校生(77.1%)より大学生(87.0%)で9.9ポイント高くなっています(図表 36)。

エ 男性は女性を守るべきだ



■ 前回調査との比較

平成21年度調査と比較すると、『賛成』は80.0%→75.1%と減少しています(図表37)。

■ 男女別の傾向

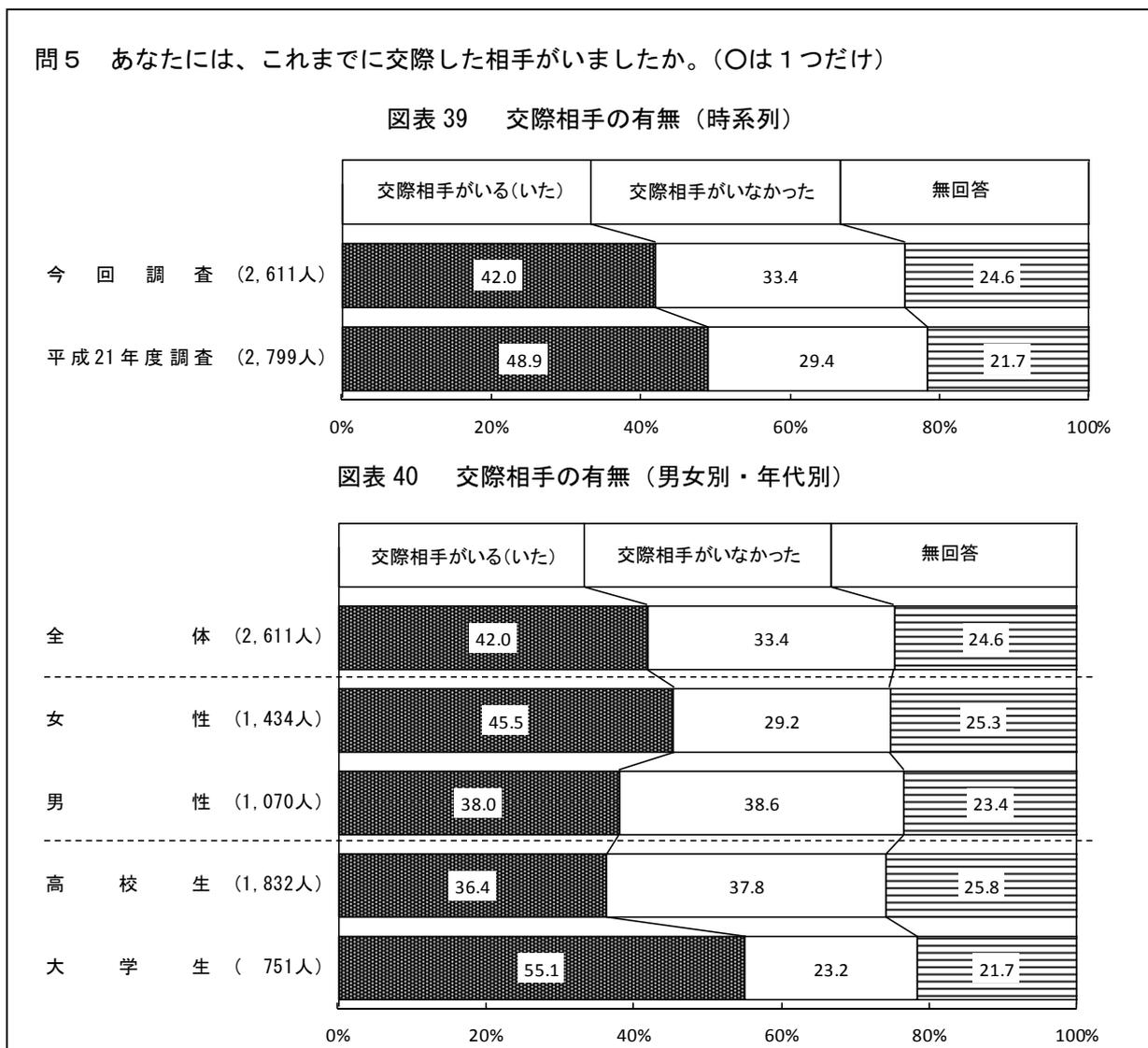
男女別では、『賛成』は女性(72.6%)より男性(79.6%)で高くなっています(図表38)。

■ 年代別の傾向

年代別では、『賛成』は、大学生(70.2%)より高校生(77.5%)で高くなっています(図表38)。

3 デートDVの実態について

問5 交際相手の有無



■前回調査との比較

平成21年度調査と比較すると、「交際相手がいる(いた)」と回答した割合は、48.9%→42.0%と減少しています(図表39)。

■男女別および年代別の傾向

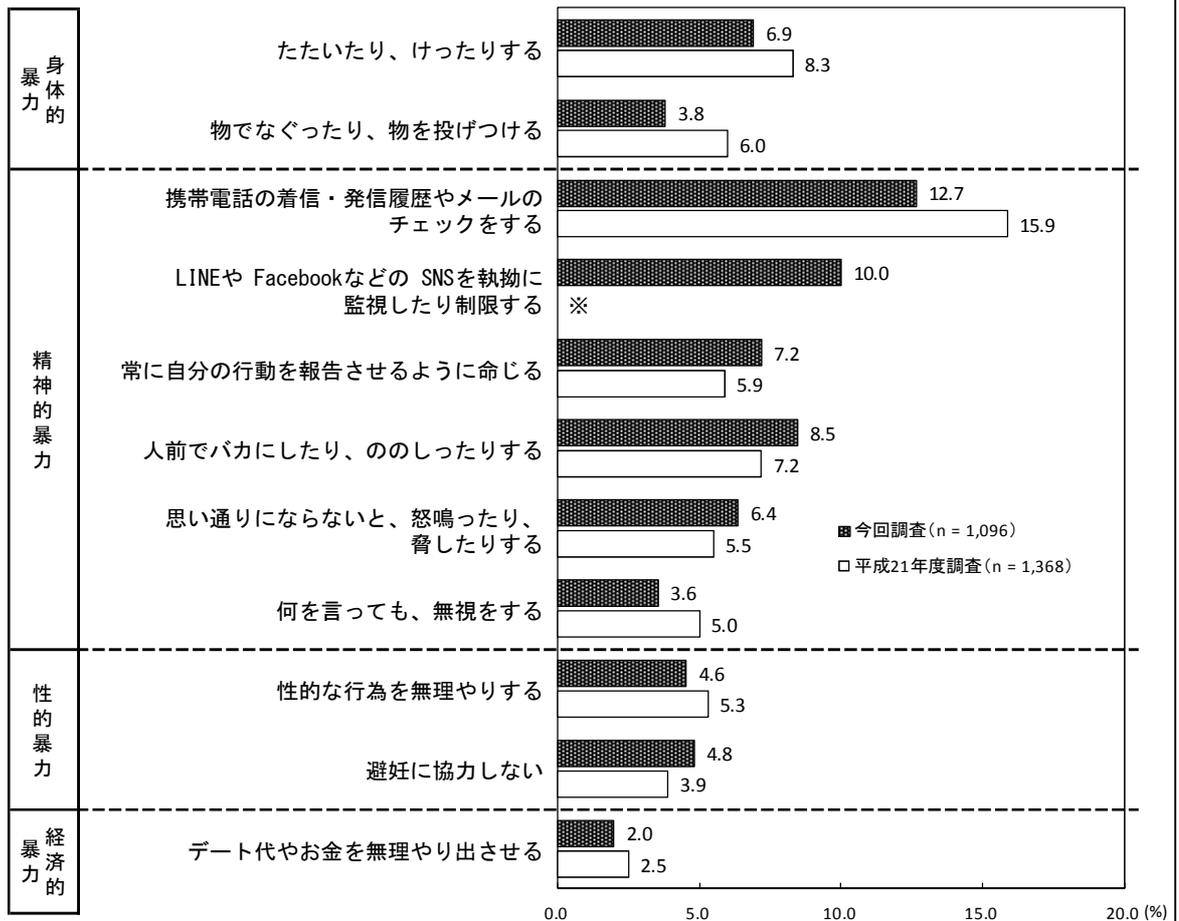
男女別では、「交際相手がいる(いた)」は男性(38.0%)より女性(45.5%)で高くなっています(図表40)。

年代別では「交際相手がいる(いた)」は高校生(36.4%)よりも大学生(55.1%)で18.7ポイント高くなっています(図表40)。

問6 交際相手からの暴力（デートDV）の被害経験

問6 あなたはこれまでに以下のようなことを、交際相手から受けたことがありますか。それぞれの項目について当てはまる方に○をつけてください。

図表41 交際相手からの暴力（デートDV）の被害経験（時系列）



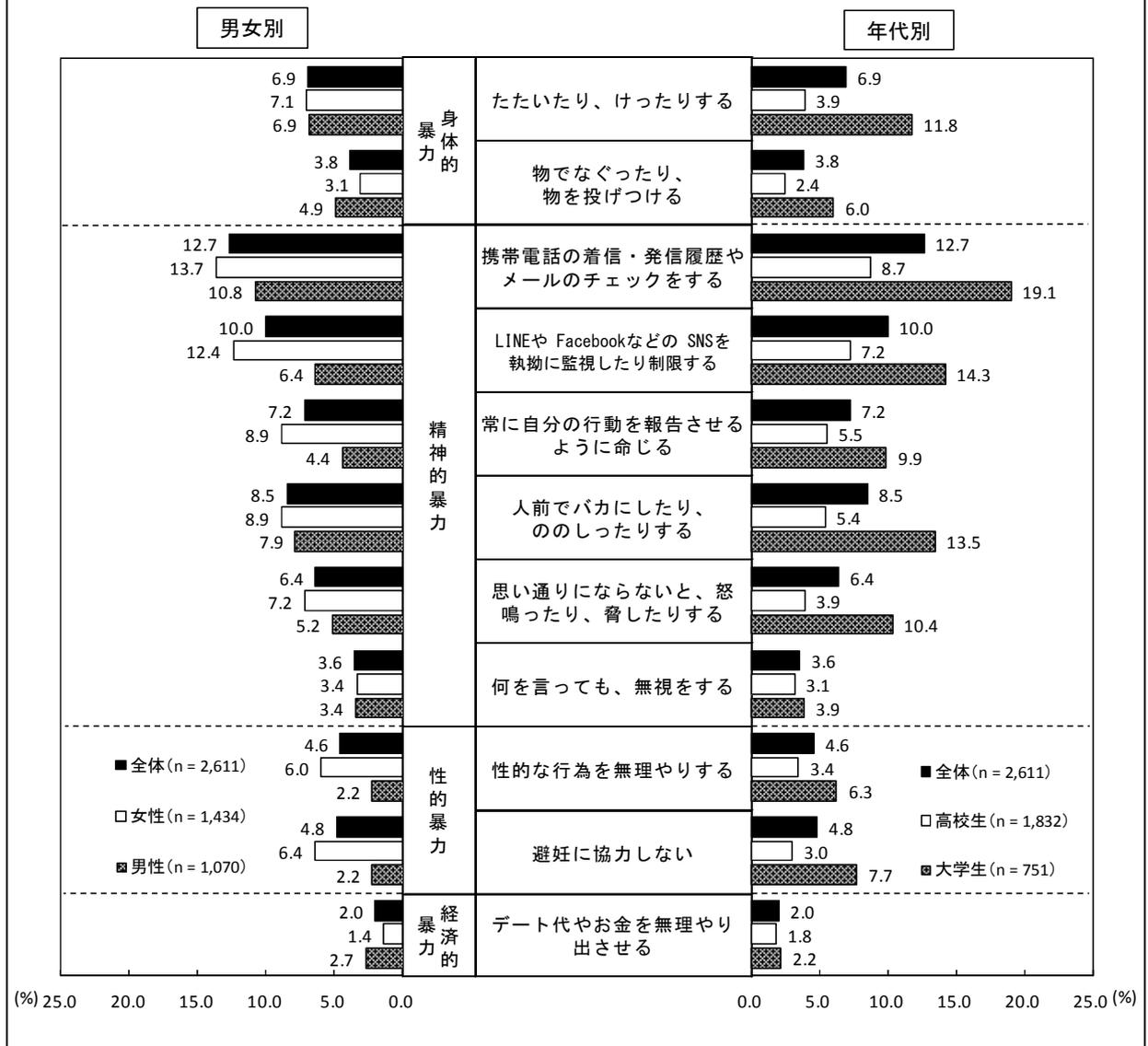
※今回調査で新設。

■全体の傾向および前回調査との比較

デートDVの被害経験は、「携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする」が12.7%、「LINEやFacebookなどのSNSを執拗に監視したり制限する」が10.0%と、携帯電話やスマートフォンによる精神的暴力が高くなっています（図表41）。

平成21年度調査と比較すると「携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする」が15.9%→12.7%と減少しています（図表41）。

図表 42 交際相手からの暴力（デートDV）の被害経験（男女別・年代別）



■男女別の傾向

男女別では、女性の被害経験が男性をほぼすべての項目で上回っていますが、特に差が大きい項目は、性的暴力や精神的暴力となっており、「性的な行為を無理やりする」（女性 6.0%、男性 2.2%）、「避妊に協力しない」（女性 6.4%、男性 2.2%）、「LINE や Facebook などの SNS を執拗に監視したり制限する」（女性 12.4%、男性 6.4%）、「常に自分の行動を報告させるように命じる」（女性 8.9%、男性 4.4%）で男女差がみられ、「たたいたり、けったりする」（女性 7.1%、男性 6.9%）や「何を言っても、無視をする」（女性 3.4%、男性 3.4%）では男女差がみられません（図表 42）。

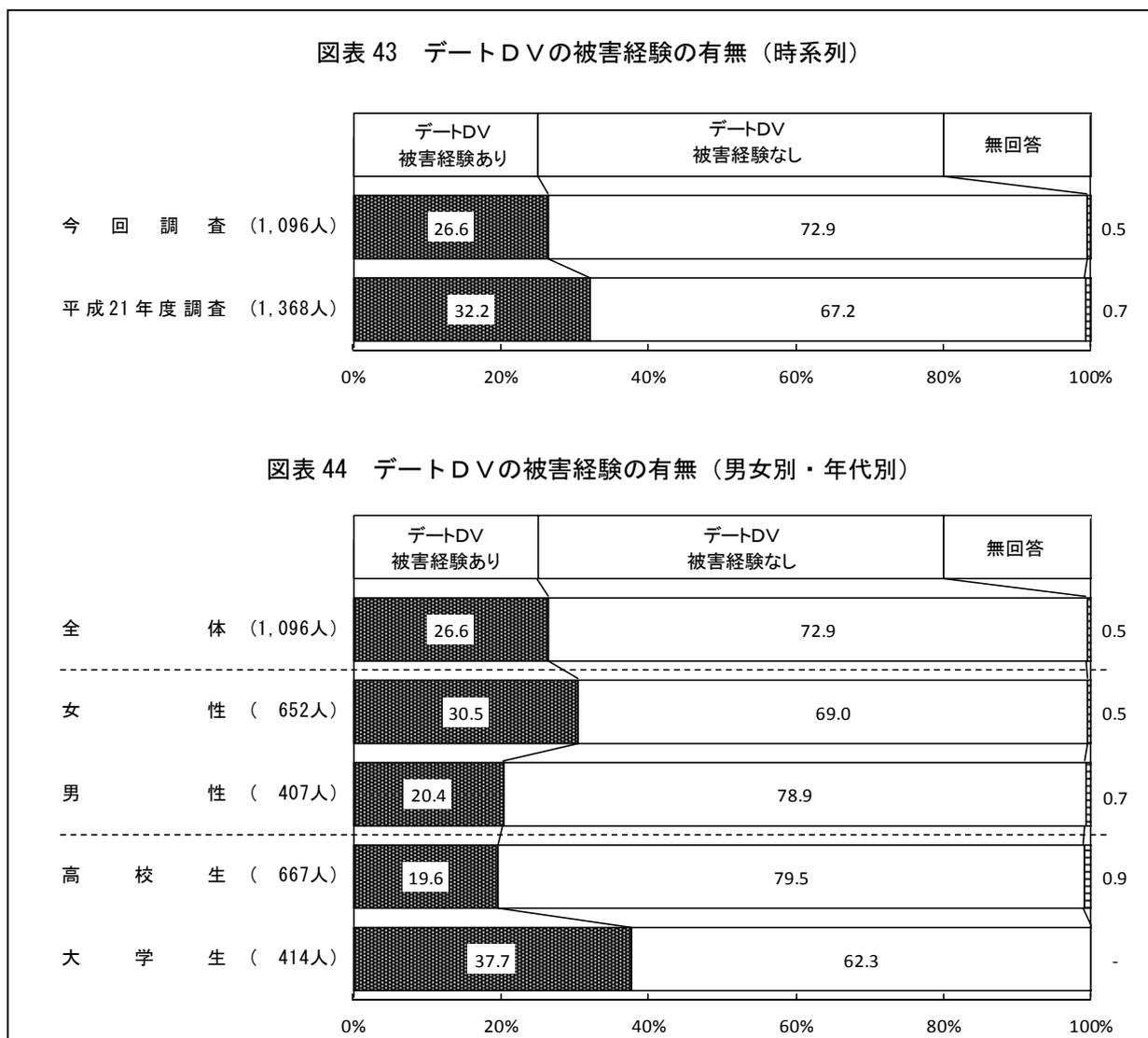
■年代別の傾向

いずれの行為についても、大学生の被害経験が高校生を上回っています。

特に「携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする」(高校生 8.7%、大学生 19.1%)、「LINE や Facebook などの SNS を執拗に監視したり制限する」(高校生 7.2%、大学生 14.3%)、「人前でバカにしたり、ののしったりする」(高校生 5.4%、大学生 13.5%)といった精神的暴力や「たたいたり、けったりする」(高校生 3.9%、大学生 11.8%)といった身体的暴力において、高校生と大学生の差が大きくなっています(図表 42)。

<デートDVの被害経験について>

問6のデートDVの被害経験に関する項目に一つでも「受けたことがある」と回答した人を「デートDV被害経験あり」、全くない人を「デートDV被害経験なし」として表しています。



■ 前回調査との比較

平成21年度調査と比較すると、デートDVの被害経験が「ある」と回答した割合は、32.2%→26.6%と減少しています（図表43）。

■ 男女別および年代別の傾向

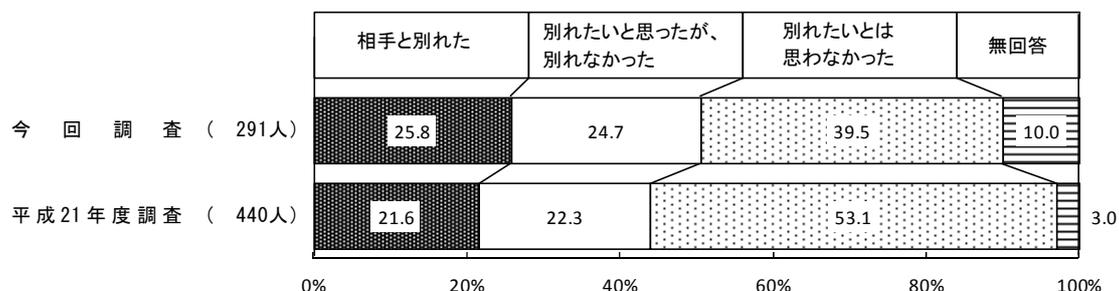
男女別では、女性が30.5%で、男性が20.4%となっており、女性の被害経験が高くなっています（図表44）。

年代別では、高校生が19.6%、大学生が37.7%となっており、大学生の被害経験が高くなっています（図表44）。

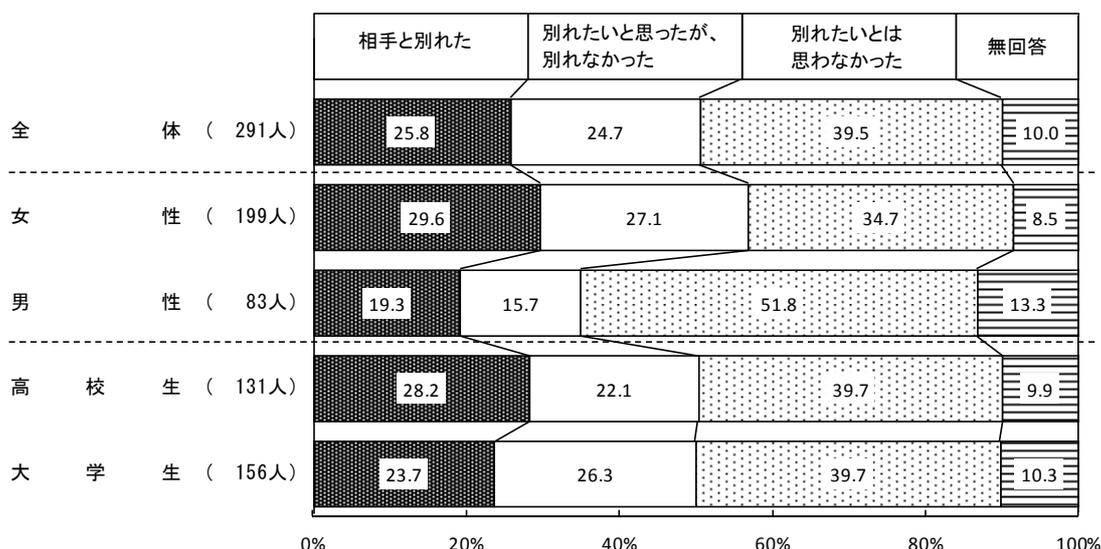
問7-1 被害を受けた後の交際

問7-1 問6で「受けたことがある」と回答した方にお聞きします。あなたは交際相手からそのような行為を受けた時、どうしましたか。当てはまる番号に○をつけてください。
(○は1つだけ)

図表45 被害を受けた後の交際（時系列）



図表46 被害を受けた後の交際（男女別・年代別）



■全体の傾向および前回調査との比較

デートDVの被害経験が「ある」と回答した人（291人）に、被害を受けた後の交際について聞いたところ、「相手と別れた」が25.8%、「別れたいと思ったが、別れなかった」が24.7%、「別れたいとは思わなかった」が39.5%となっています。

平成21年度調査と比較すると、「別れたいとは思わなかった」と回答した割合は53.1%→39.5%と減少しています（図表45）。

■男女別の傾向

男女別では、「別れたいとは思わなかった」は男性が51.8%となっており、女性の34.7%を17.1ポイント上回っています（図表46）。

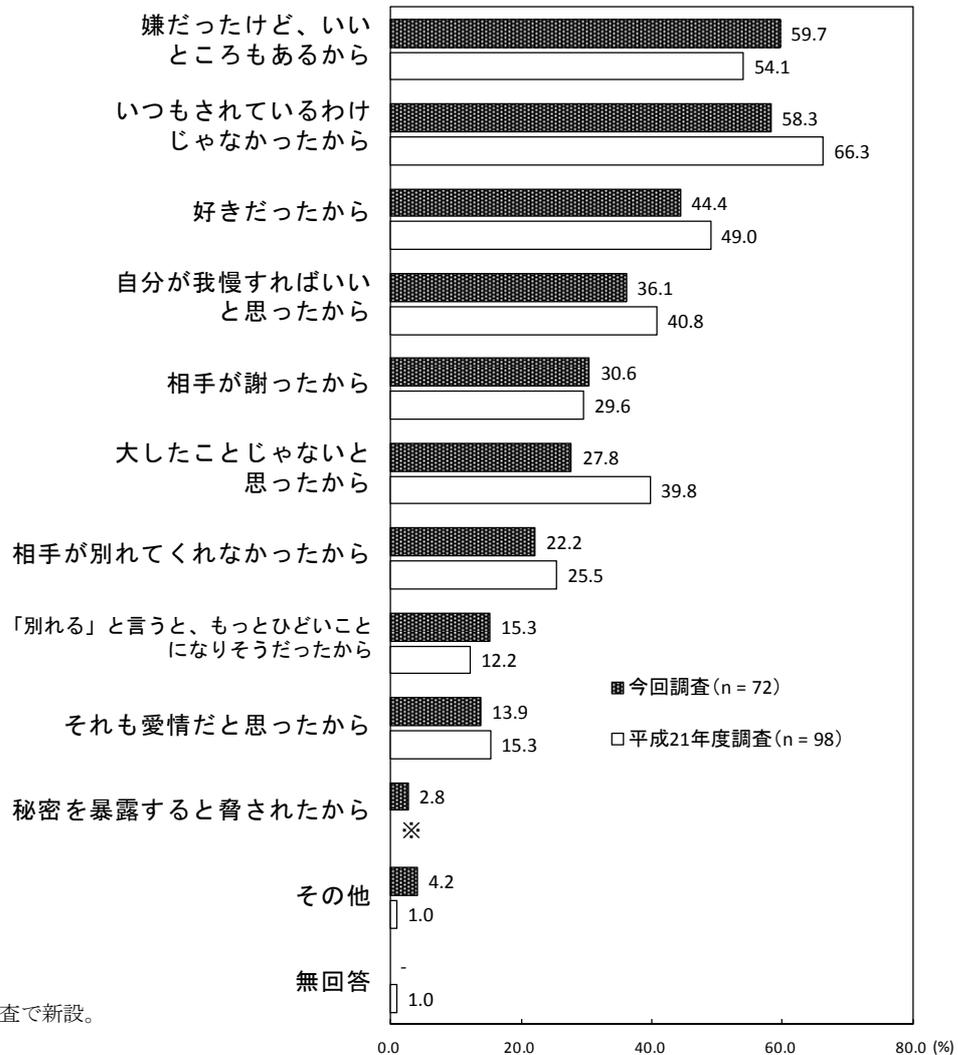
■年代別の傾向

年代別では、大きな差はみられません（図表46）。

問7-2 別れなかった理由

問7-2 問7-1で「2 別れたいと思ったが、別れなかった」と回答した方にお聞きします。あなたが交際相手と別れなかった理由は何ですか。(当てはまる番号すべてに○)

図表 47 別れなかった理由（時系列）

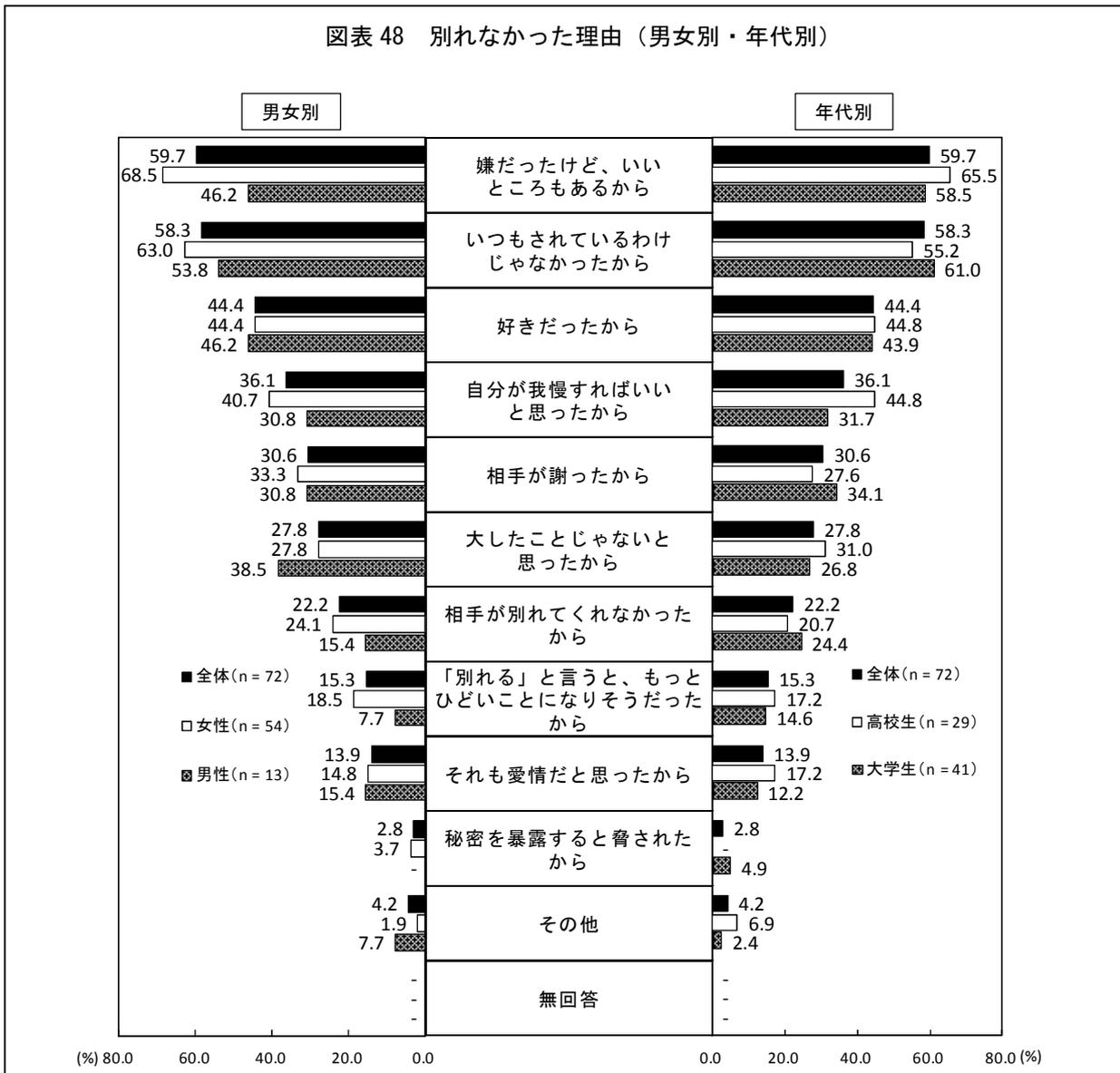


■全体の傾向および前回調査との比較

デートDVの被害を受けた後「別れたいと思ったが、別れなかった」と回答した人（72人）にその理由を聞いたところ、「嫌だったけど、いいところもあるから」（59.7%）、「いつもされているわけじゃなかったから」（58.3%）、「好きだったから」（44.4%）などが理由として挙げられています（図表 47）。

平成 21 年度調査と比較すると、大きな差はみられません（図表 47）。

図表 48 別れなかった理由（男女別・年代別）



■男女別の傾向

女性では「嫌だったけど、いいところもあるから」（女性 68.5%、男性 46.2%）、「いつもされているわけじゃなかったから」（女性 63.0%、男性 53.8%）、「自分が我慢すればいいと思ったから」（女性 40.7%、男性 30.8%）などで男性を上回っています（図表 48）。

■年代別の傾向

高校生では「嫌だったけど、いいところもあるから」（高校生 65.5%、大学生 58.5%）、「自分が我慢すればいいと思ったから」（高校生 44.8%、大学生 31.7%）などで大学生を上回っています。一方、大学生では「いつもされているわけじゃなかったから」（高校生 55.2%、大学生 61.0%）、「相手が謝ったから」（高校生 27.6%、大学生 34.1%）などで高校生を上回っています（図表 48）。

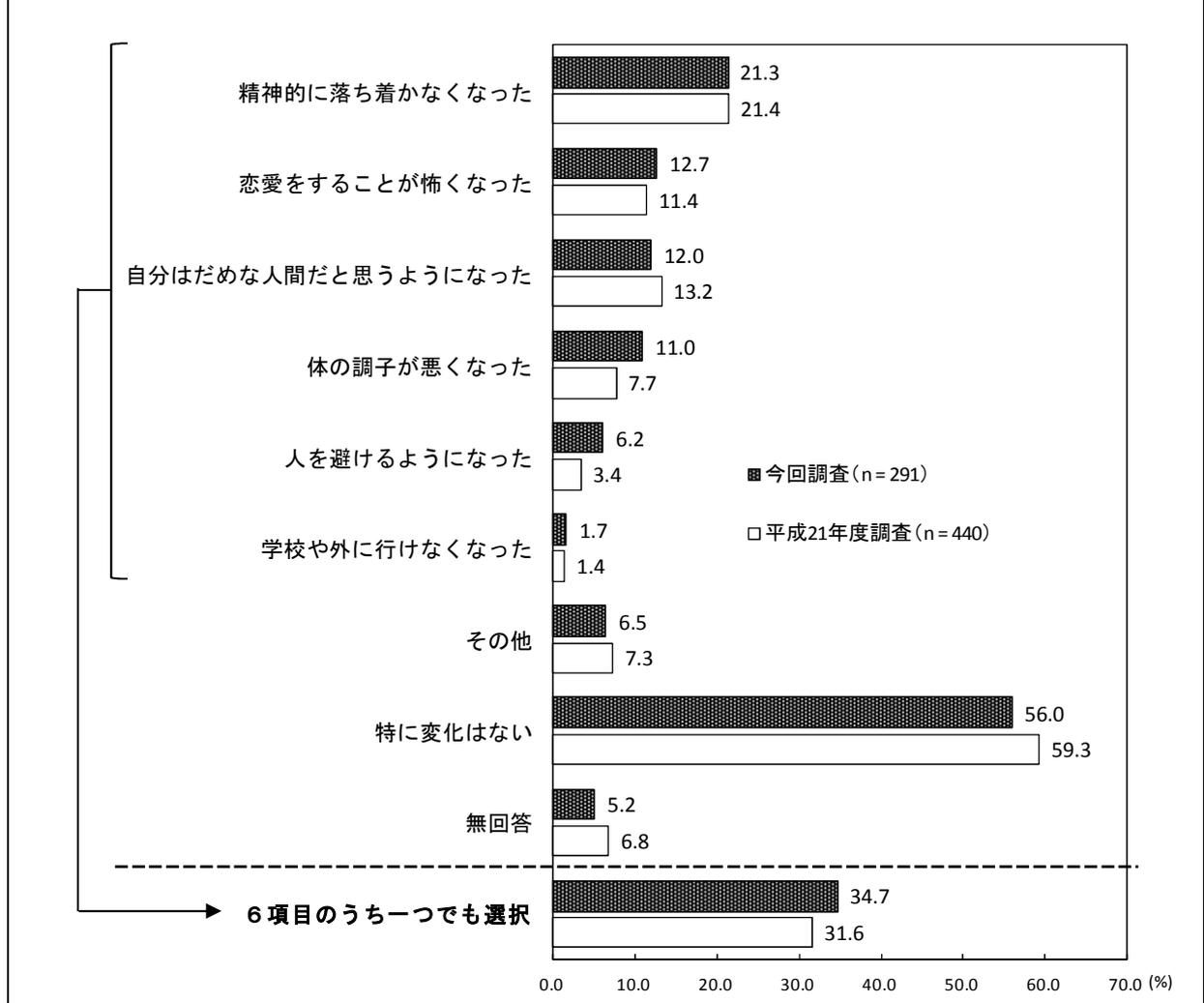
■「その他」の回答

分類	主な内容	件
その他	○相手も報告してきていたから（高校2年女性）	1

問8 被害が及ぼした影響

問8 問6で「受けたことがある」と回答した方にお聞きします。あなたは交際相手からそのような行為を受けたことによって、どのような影響がありましたか。(当てはまる番号すべてに○)

図表 49 被害が及ぼした影響 (時系列)

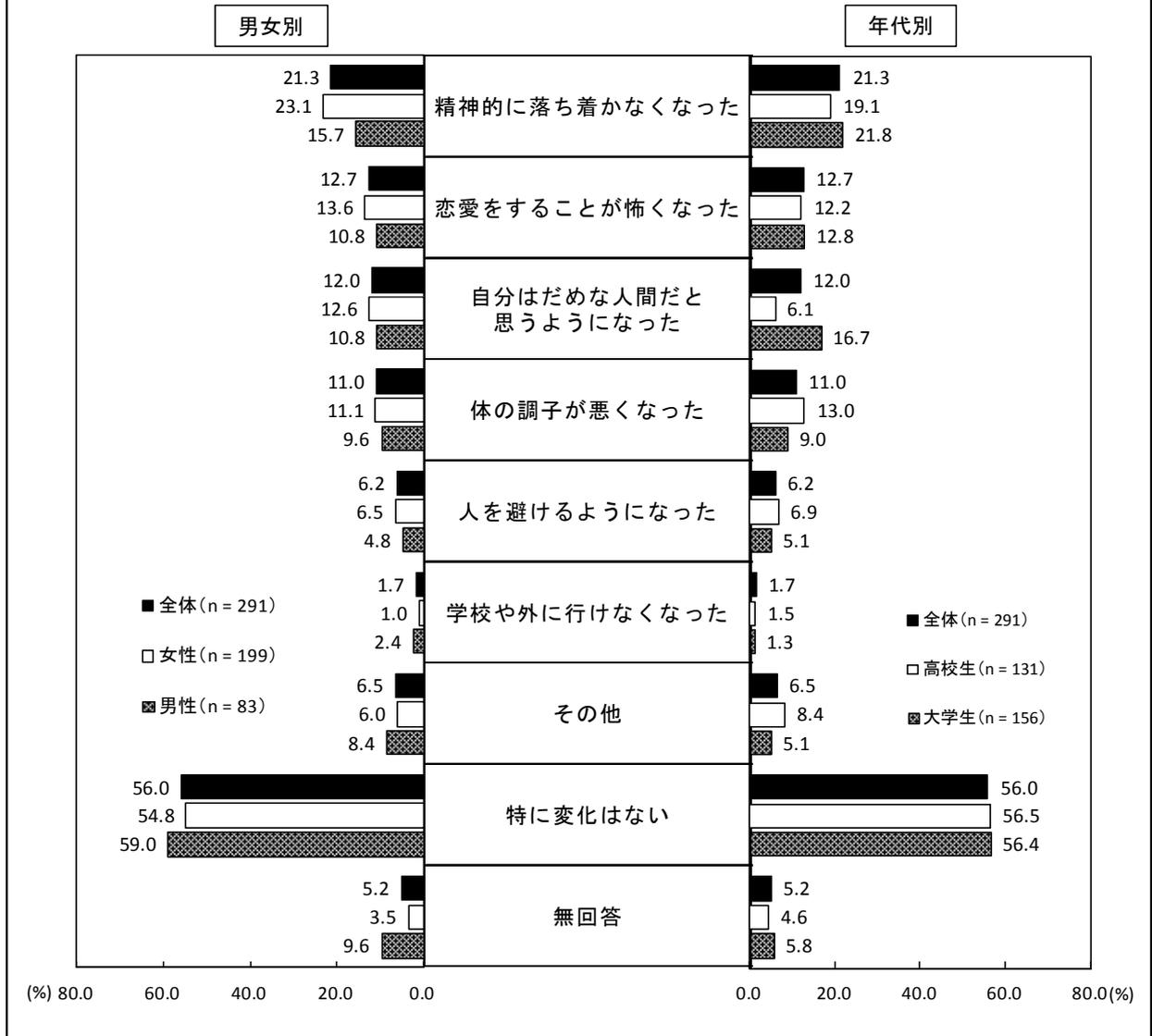


■全体の傾向および前回調査との比較

デートDVの被害経験が「ある」と回答した人(291人)に、被害経験が及ぼした影響を聞いたところ、「精神的に落ち着かなくなった」(21.3%)、「恋愛をすることが怖くなった」(12.7%)、「自分はだめな人間だと思うようになった」(12.0%)、「体の調子が悪くなった」(11.0%)などが挙げられています。また「特に変化はない」は56.0%となっています。なお、6項目のうち一つでも選択した人は34.7%となっています(図表49)。

平成21年度調査と比較すると、被害が及ぼした影響の6項目のうち一つでも選択した人の割合には大きな差はみられません(図表49)。

図表 50 被害が及ぼした影響（男女別・年代別）



■男女別の傾向

男女別では、大きな差はみられません（図表 50）。

■年代別の傾向

年代別にみると、「自分はだめな人間だと思ふようになった」は高校生（6.1%）より大学生（16.7%）で、10.6ポイント高くなっています（図表 50）。

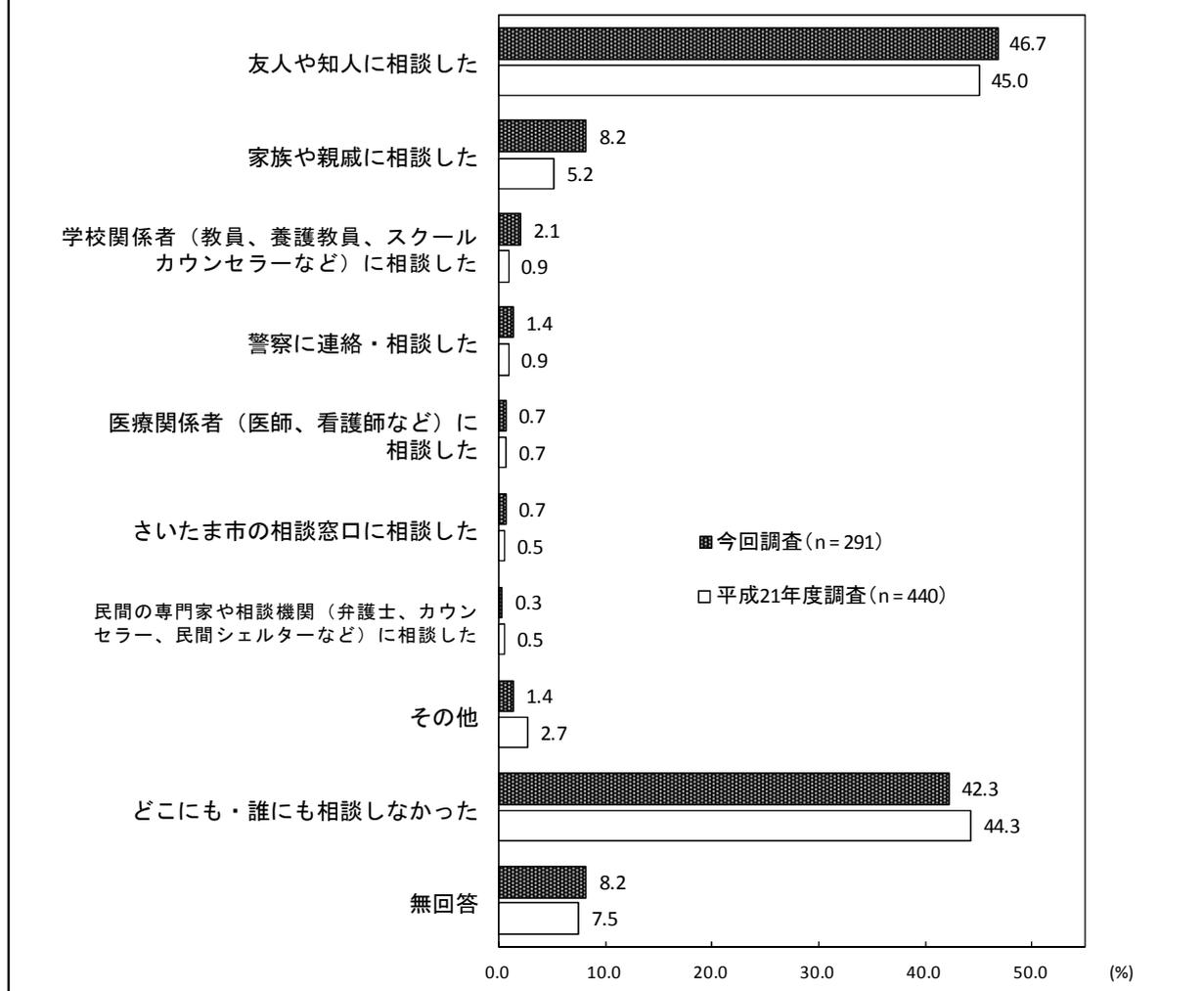
■「その他」の回答

分類	主な内容	件数
相手への気持ちの変化	○面倒くさいと思った（高校3年女性、ほか） ○嫌な気持ちになった（大学1年女性） ○ののしられたところを直すようにした（大学2年女性）	5
愛情を感じた	○もっと好きになった（高校3年男性） ○あくまでも、じゃれないの範囲だった（高校3年男性、ほか）	3
怖さを感じるようになった	○男性が怖くなった（高校1年女性） ○男子を避けるように（高校1年女性）	2
他人に対する気持ちの変化	○とにかく、イライラした（高校1年女性）	1
その他	○ストレスがたまった（高校1年女性） ○自分を追い込んで、してしまうことが、あった。（大学1年男性） ○ぼうこう炎になった（大学2年女性）	3

問9-1 被害の相談先

問9-1 問6で「受けたことがある」と回答した方にお聞きします。あなたは交際相手から受けたそのような行為について、誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。
(当てはまる番号すべてに○)

図表 51 被害の相談先（時系列）

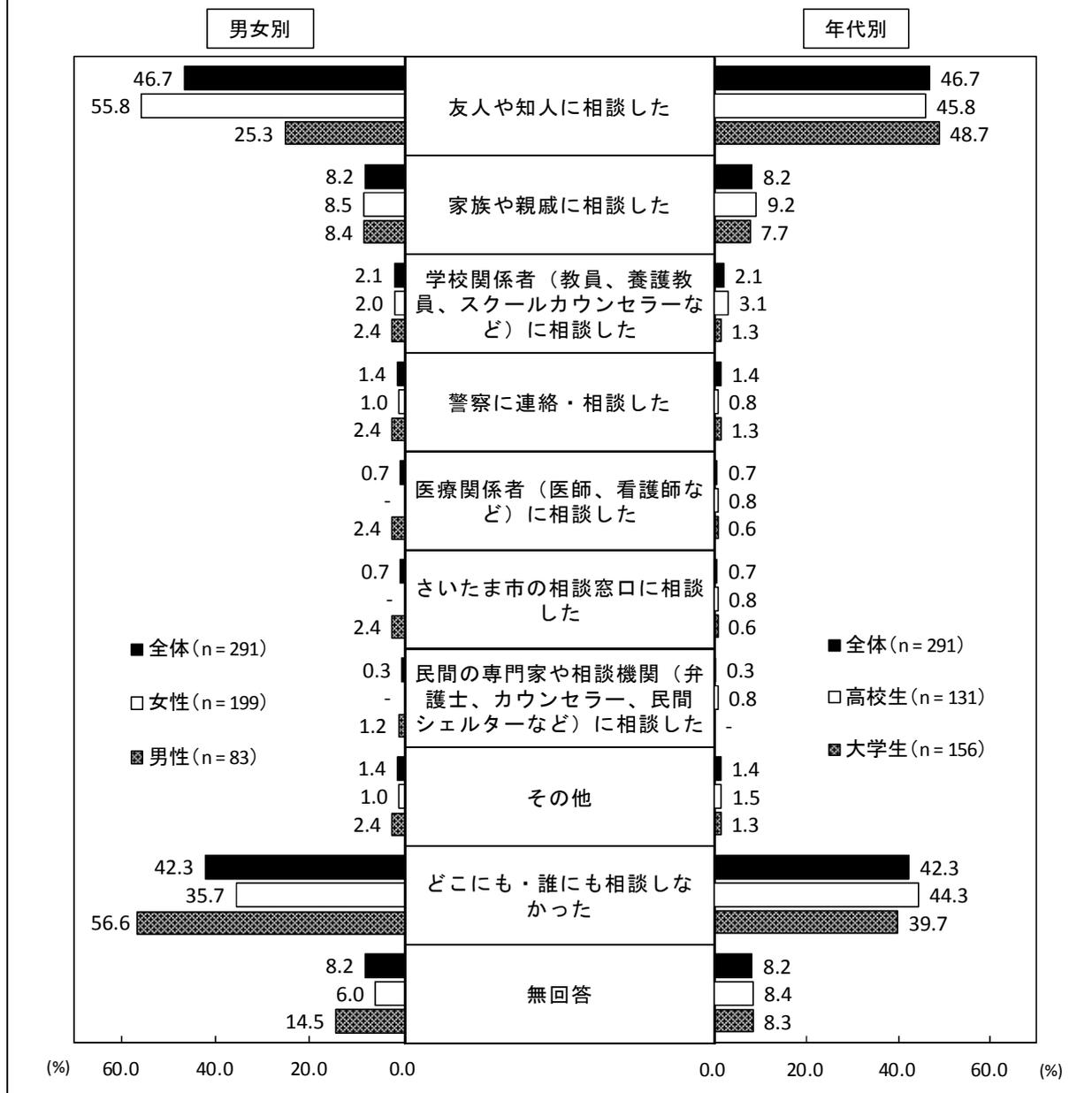


■全体の傾向および前回調査との比較

デートDVの被害経験が「ある」と回答した人（291人）に、相談先を聞いたところ、「友人や知人に相談した」が46.7%と最も多く、大きく離れて「家族や親戚に相談した」（8.2%）などが挙げられています。一方、「どこにも・誰にも相談しなかった」は42.3%となっています（図表51）。

平成21年度調査と比較すると、いずれの項目でも大きな差はみられません（図表51）。

図表 52 被害の相談先（男女別・年代別）



■男女別の傾向

男女別では、女性の 55.8%が「友人や知人に相談した」、男性の 56.6%が「どこにも・誰にも相談しなかった」、と回答しており、相談をすることについて男女の意識差がみられます（図表 52）。

■年代別の傾向

年代別では、いずれの項目でも大きな差はみられません（図表 52）。

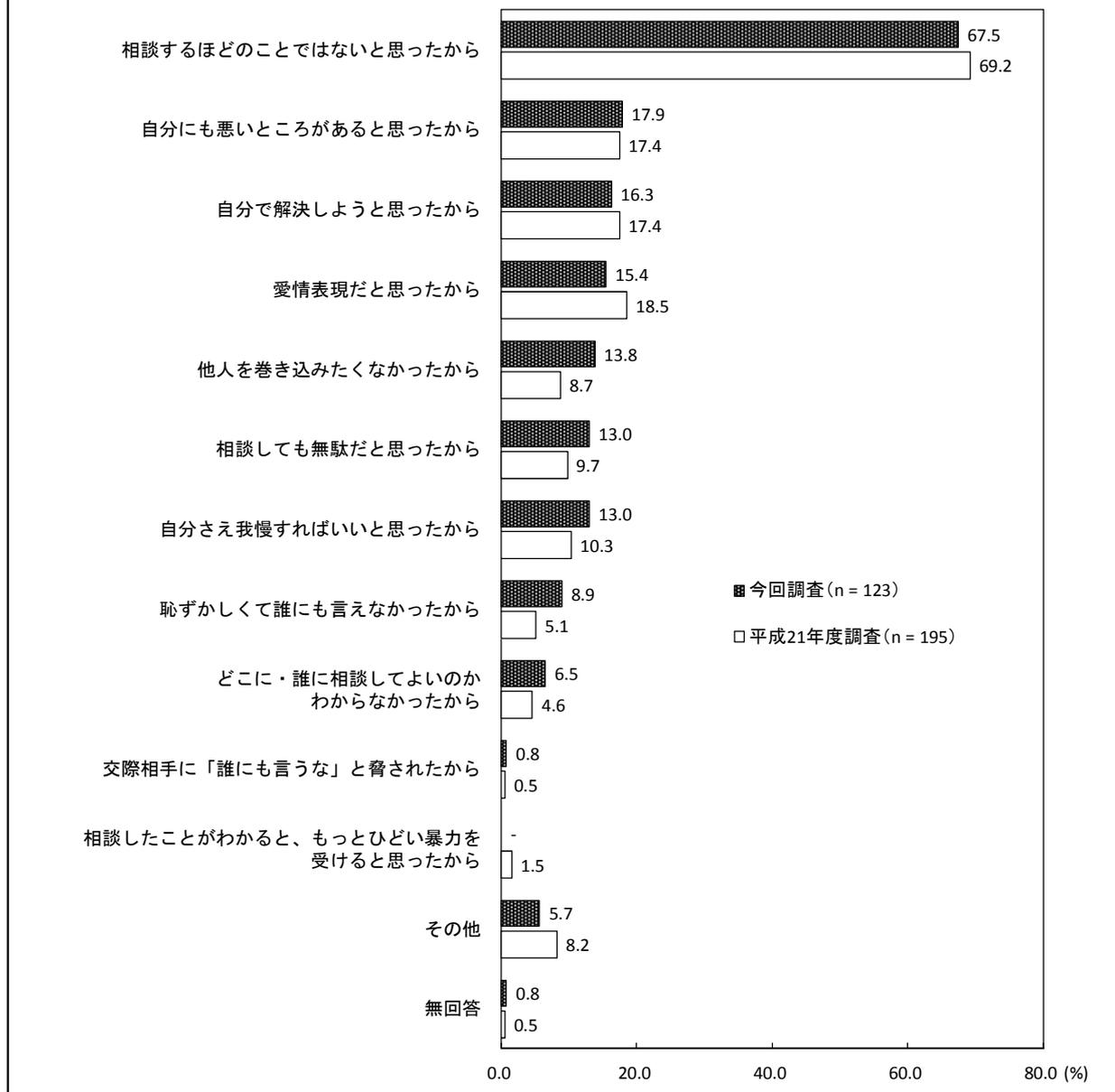
■その他の回答

分類	主な内容	件数
本人に言った	○交際相手と話し合った（高校3年男性）	1

問9-2 どこにも・誰にも相談しなかった理由

問9-2 問9-1で「9 どこにも・誰にも相談しなかった」と回答した方にお聞きします。
あなたが誰にも相談しなかったのはなぜですか。(当てはまる番号すべてに○)

図表 53 どこにも・誰にも相談しなかった理由（時系列）

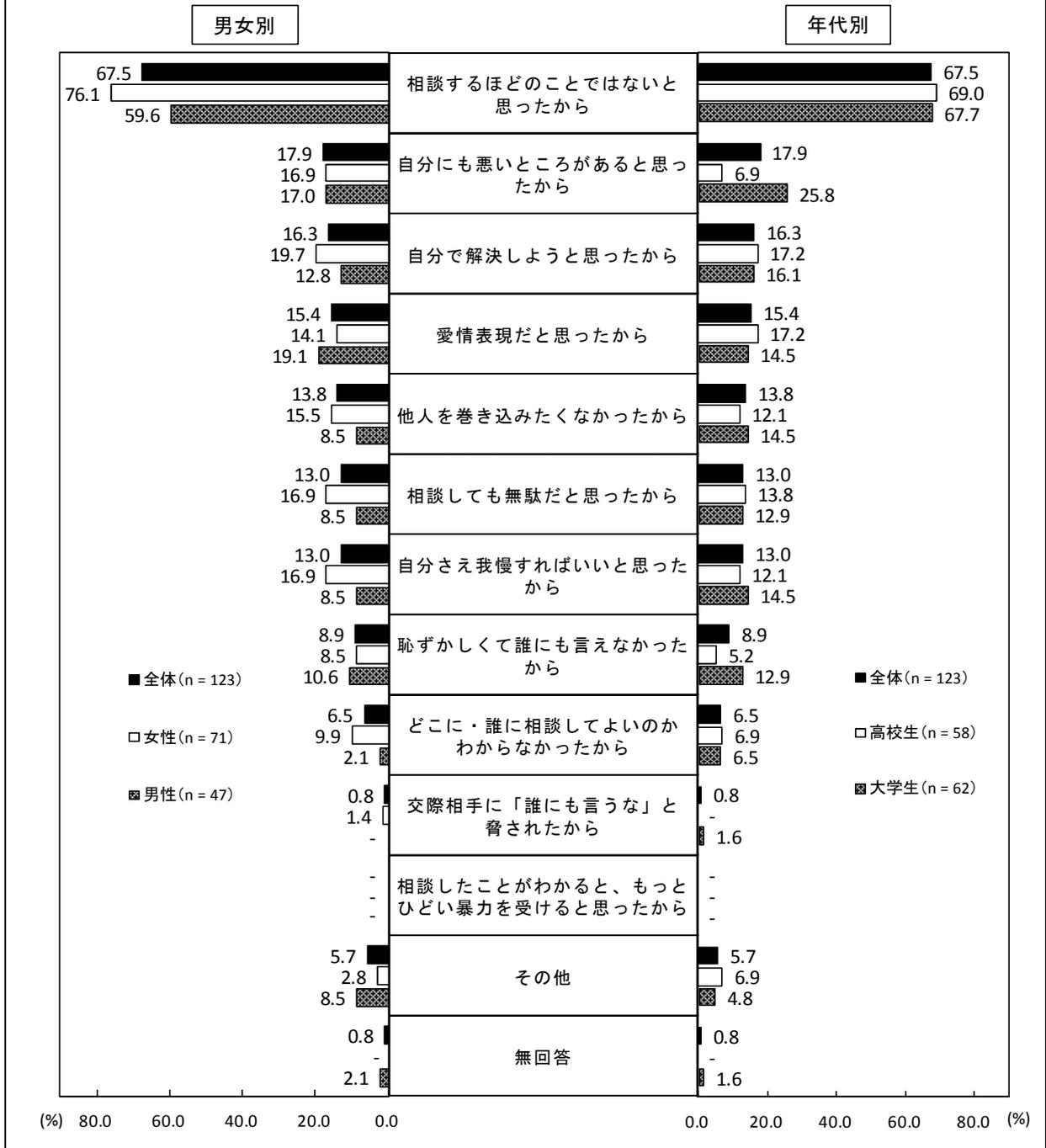


■全体の傾向および前回調査との比較

デートDVの被害経験が「ある」と回答した人のうち、暴力の被害について「どこにも・誰にも相談しなかった」と回答した人（123人）に、その理由を聞いたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」が67.5%と最も多く、以下、「自分にも悪いところがあったから」（17.9%）、「自分で解決しようと思ったから」（16.3%）、「愛情表現だと思ったから」（15.4%）などが理由と挙げられています（図表53）。

平成21年度調査と比較すると、いずれの項目も大きな差はみられません（図表53）。

図表 54 どこにも・誰にも相談しなかった理由（男女別・年代別）



■男女別の傾向

男女別では「相談するほどのことではないと思ったから」は男性（59.6%）より女性（76.1%）で16.5ポイント高くなっています（図表54）。

■年代別の傾向

年代別では、「自分にも悪いところがあると思ったから」は高校生（6.9%）より大学生（25.8%）で18.9ポイント高くなっています（図表54）。

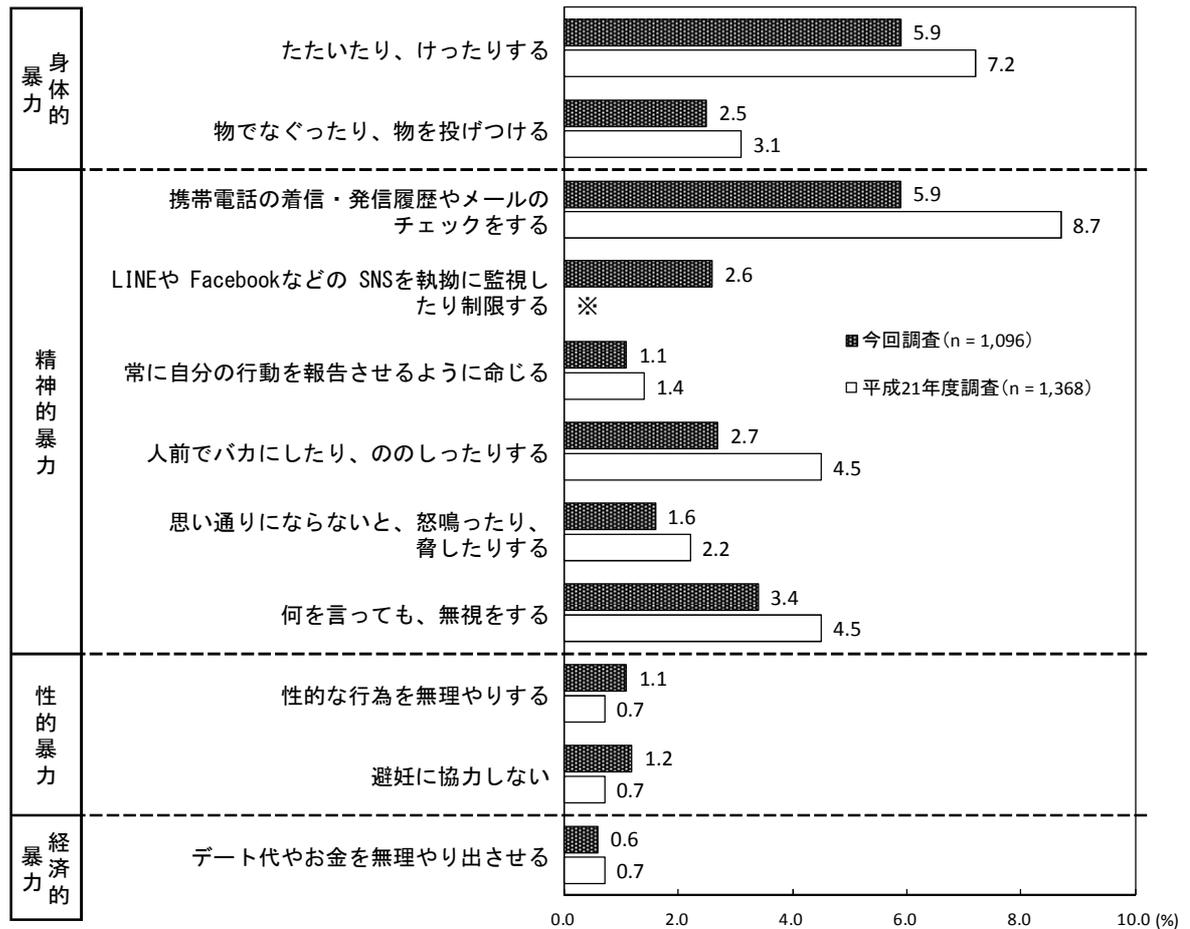
■「その他」の回答

分類	主な内容	件数
大したことではないから	○解決できることだったから（高校2年女性） ○たいしたことないから（高校3年男性） ○どうしても良かった（大学2年男性）	3
面倒だから	○面倒くさかった（高校3年男性、など）	2

問10 交際相手への加害経験

問10 問5で「交際相手がいる(いた)」と回答した方にお聞きします。あなたはこれまでに以下のようなことを、交際相手にしたことがありますか。それぞれの項目について当てはまる方に○をつけてください。

図表55 交際相手への加害経験(時系列)

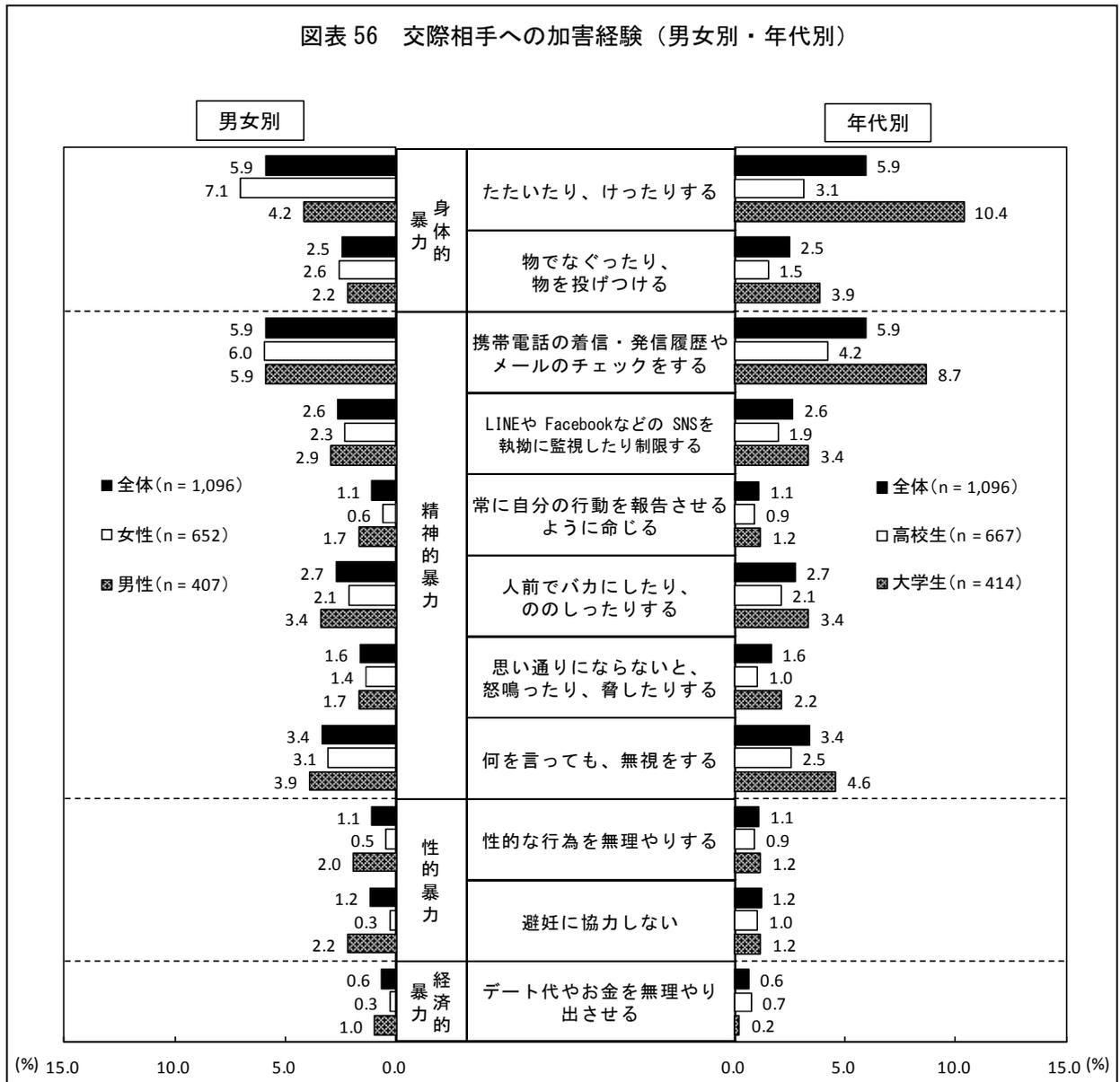


※今回調査で新設。

■全体の傾向および前回調査との比較

交際相手がいると回答した人(1,096人)に、加害経験を聞いたところ、「たたいたり、けったりする」(5.9%)、「携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする」(5.9%)、「何を言っても、無視をする」(3.4%)などが挙げられています(図表55)。

平成21年度調査と比較すると、ほとんどの項目で減少していますが、性的暴力において、若干ではありますが増加がみられます(図表55)。



■男女別の傾向

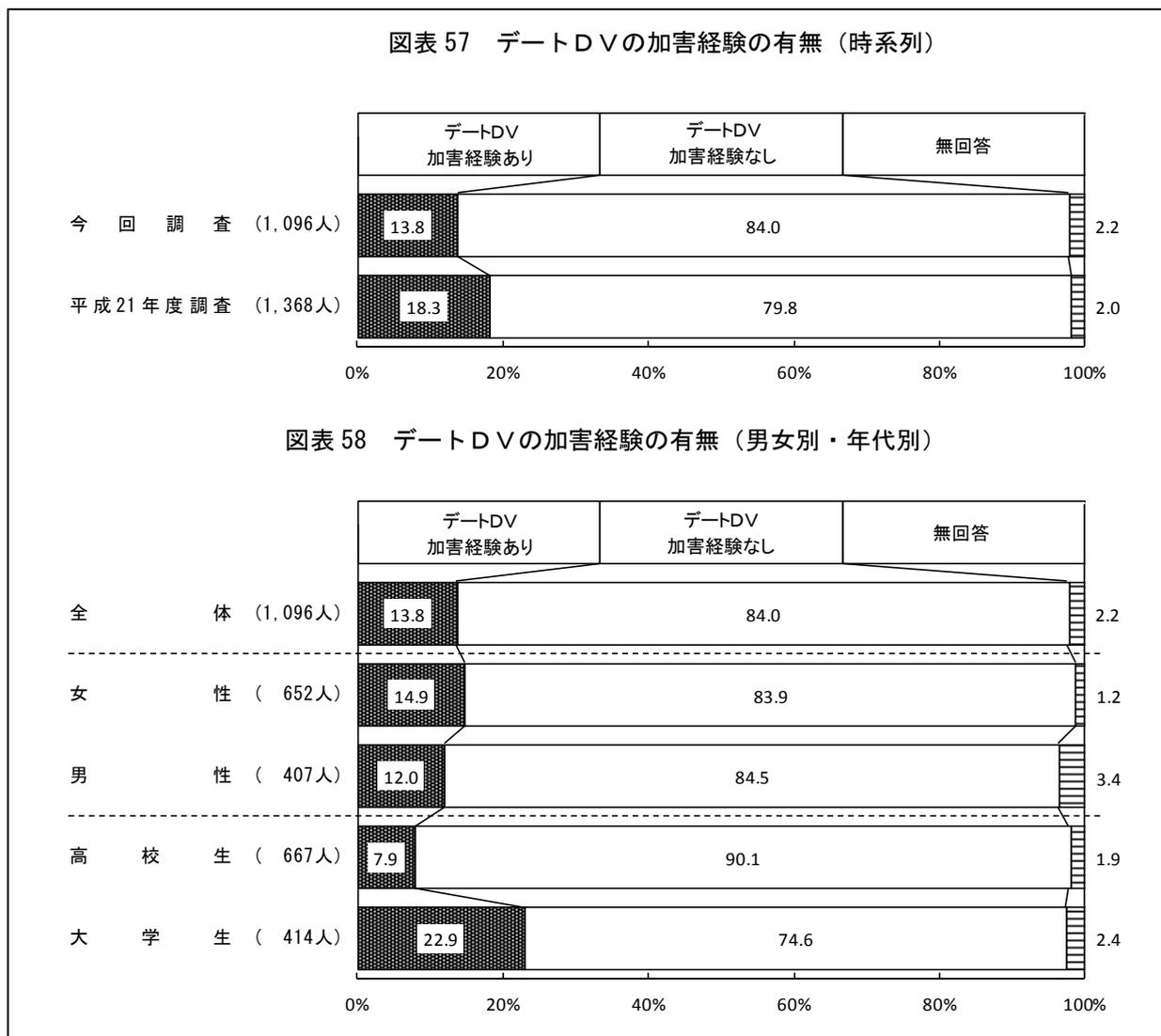
男女別では、女性の加害経験が男性を上回っている項目は、身体的暴力の「たたいたり、けったりする」(女性7.1%、男性4.2%)、「物でなぐったり、物を投げつける」(女性2.6%、男性2.2%)となっています(図表56)。

■年代別の傾向

年代別にみると、ほとんどの行為で大学生が高校生を上回っていますが、「デート代やお金を無理やり出させる」(高校生0.7%、大学生0.2%)では、回答者は少ないですが、高校生が大学生を上回っています(図表56)。

<デートDVの加害経験について>

問10のデートDVの加害経験に関する項目に一つでも「したことがある」と回答した人を「デートDV加害経験あり」、全くない人を「デートDV加害経験なし」として表しています。



■ 前回調査との比較

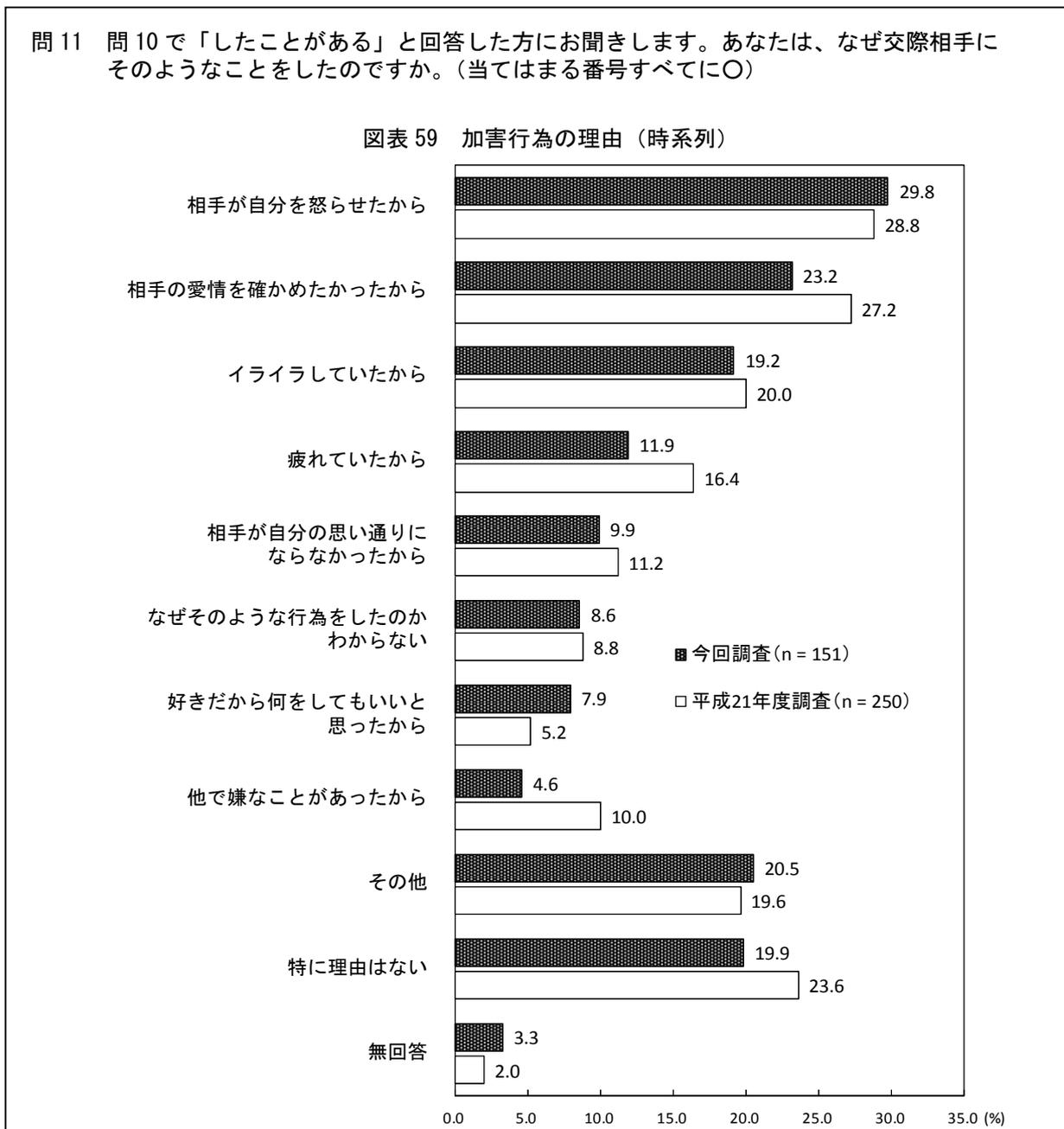
交際相手に対して、デートDVの加害経験があると回答した割合は、平成21年度調査と比較すると、18.3%→13.8%と減少しています（図表57）。

■ 男女別および年代別の傾向

男女別では、大きな差はみられず、年代別では、加害経験があると回答した割合は、高校生（7.9%）より大学生（22.9%）で15ポイント高くなっています（図表58）。

4 デートDVの発生要因について

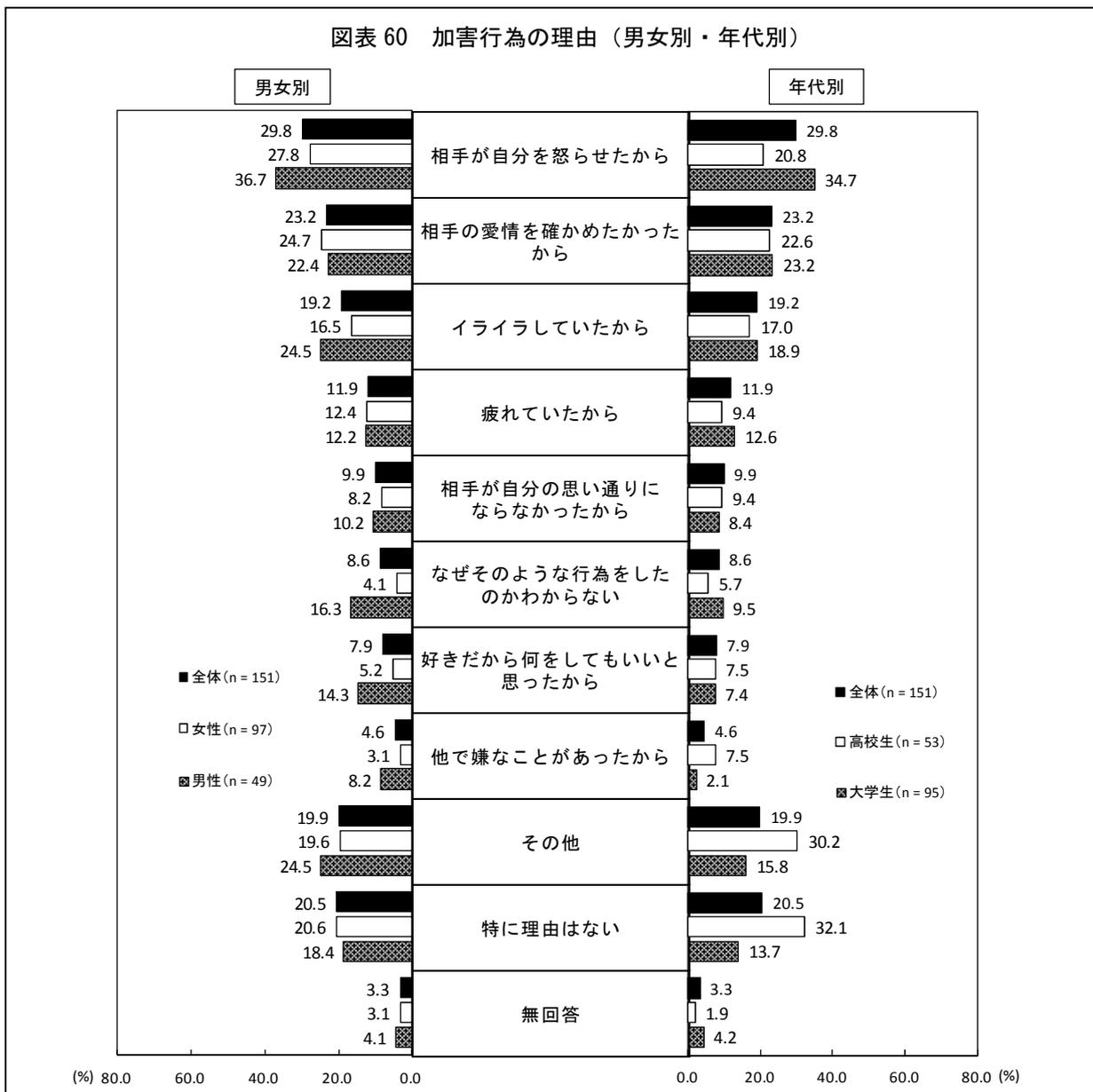
問11 加害行為の理由



■全体の傾向および前回調査との比較

交際相手に対して、デートDVの加害経験があると回答した人（151人）に、加害行為の理由を聞いたところ、「相手が自分を怒らせたから」（29.8%）、「相手の愛情を確かめたかったから」（23.2%）、「イライラしていたから」（19.2%）などが理由と挙げられています。

平成21年度調査と比較すると、いずれの項目でも大きな差はみられません（図表59）。



■男女別の傾向

女性では、「相手の愛情を確かめたかったから」（女性 24.7%、男性 22.4%）や「特に理由はない」（女性 20.6%、男性 18.4%）で男性をやや上回っています。男性では「相手が自分を怒らせたから」（女性 27.8%、男性 36.7%）、「イライラしていたから」（女性 16.5%、男性 24.5%）、「好きだから何をしてもいいと思ったから」（女性 5.2%、男性 14.3%）、「なぜそのような行為をしたのかわからない」（女性 4.1%、男性 16.3%）などで女性を上回っています（図表 60）。

■年代別の傾向

年代別にみると、「特に理由はない」は大学生（13.7%）より高校生（32.1%）で高くなっています。「相手が自分を怒らせたから」は高校生（20.8%）より大学生（34.7%）で高くなっています（図表 60）。

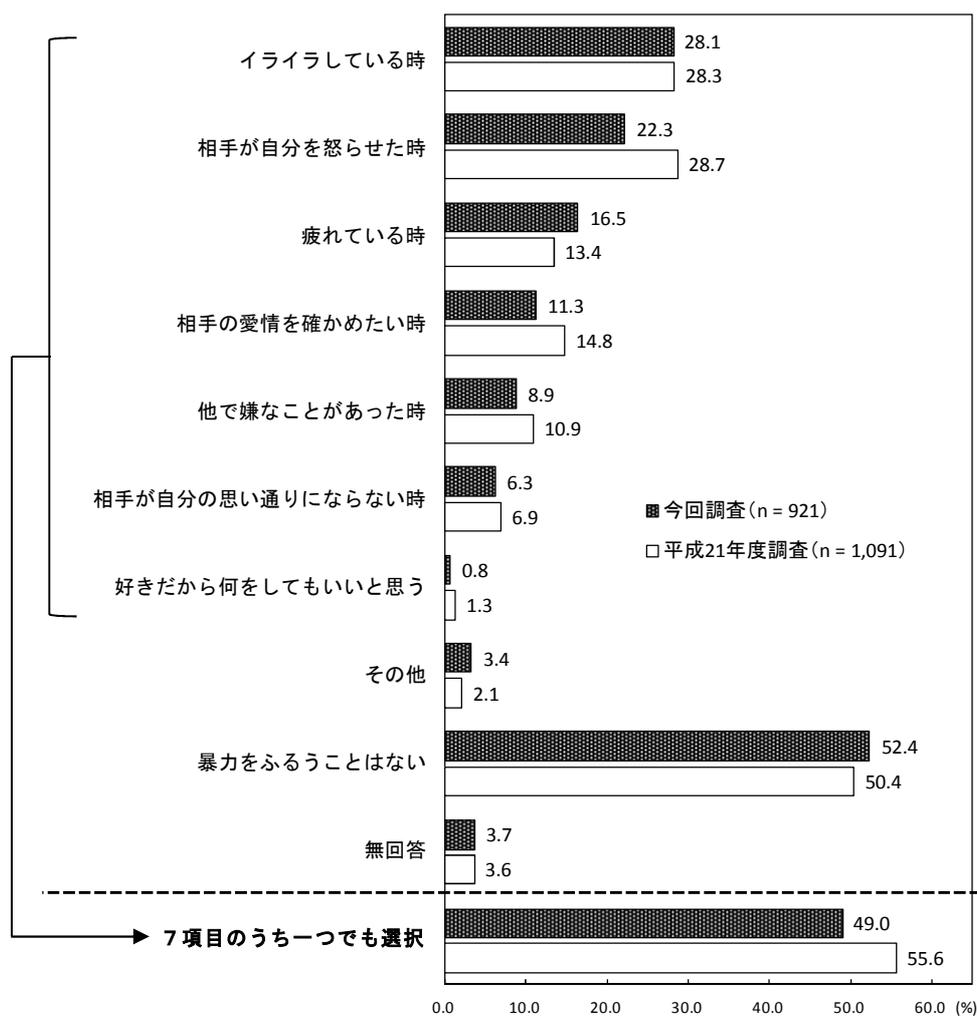
■その他の回答

分類	主な内容	件数
相手に原因がある	<ul style="list-style-type: none"> ○浮気された（高校3年男性、高校3年女性） ○ケンカしていたから（高校3年女性、高校1年男性、など） ○信頼、信用できなかったから（高校3年女性） ○注意する意味で軽くしたことがある（大学1年男性） ○暴力をふるわれたから反射的に手が出た（大学2年女性） 	9
冗談・遊び	<ul style="list-style-type: none"> ○本気ではないし、じゃれあい。深刻なものではない（高校2年女性、ほか） ○ツッコミでしました（高校3年男性） ○お互いに遊んでいて（大学1年女性、高校1年男性） ○そんなに強くはたいていない。肩をポンと押したぐらい（大学1年女性） ○冗談半分で（大学2年女性、大学1年女性） 	9
自分本意な理由から	<ul style="list-style-type: none"> ○さびしかったから（高校1年女性） ○不安だった（高校2年女性） ○他の異性と関わってほしくないから（大学2年女性） ○愛情表現（高校3年男性、高校2年男性、など） 	6

問12 暴力をふるう可能性がある状況

問12 問10で「したことはない」と回答した方にお聞きします。もし今後問10にあるような行為を相手にしてしまうとしたら、その時のあなたの状況はどういった時だと思えますか。
(当てはまる番号すべてに○)

図表 61 暴力をふるう可能性がある状況（時系列）

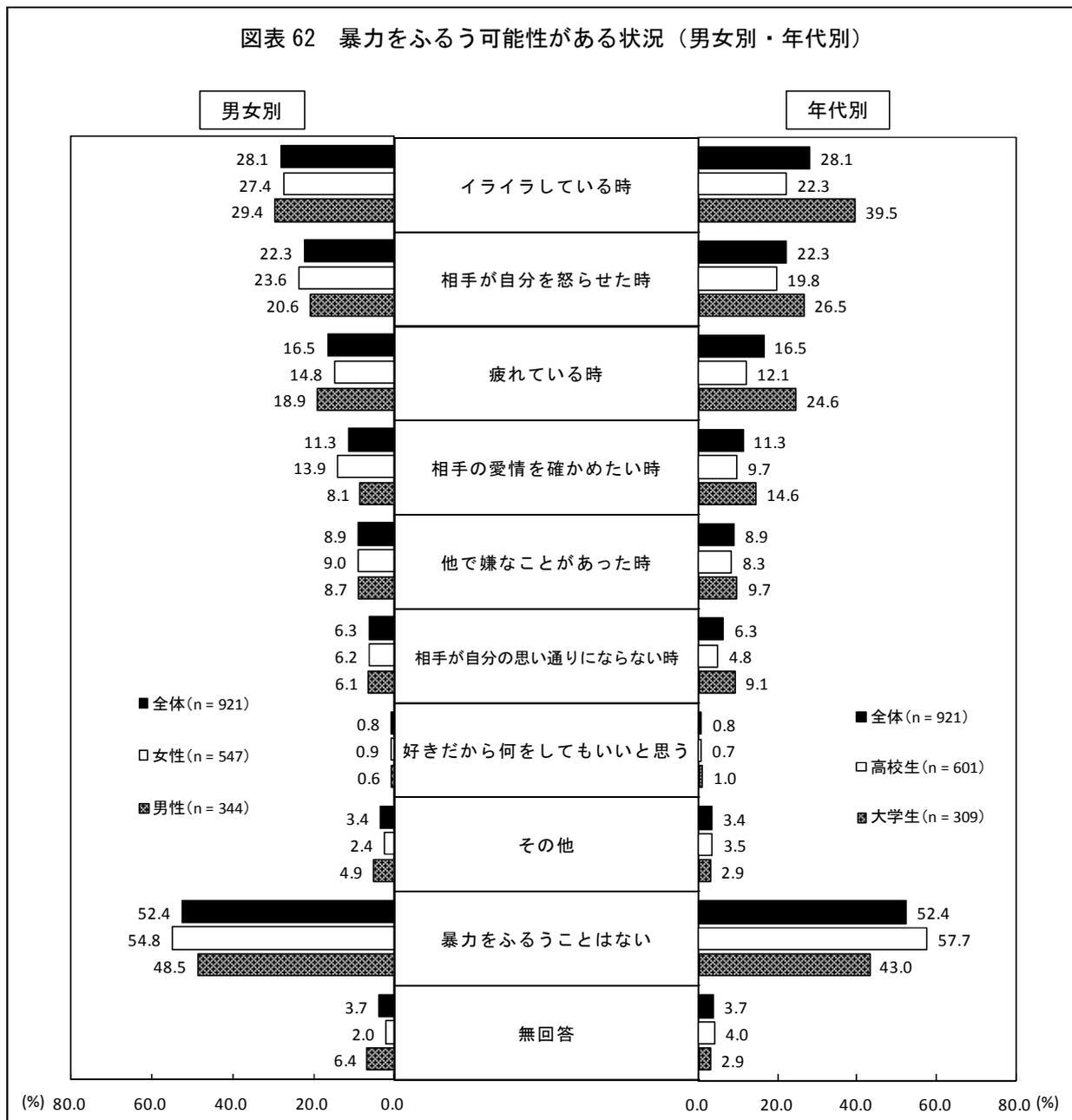


■全体の傾向および前回調査との比較

交際相手に対して、デートDVの加害経験がない人（921人）に、今後の暴力行為の可能性を聞いたところ、「暴力をふるうことはない」（52.4%）、「7項目のうち一つでも選択した人」（49.0%）がともに約半数となっています（図表 59）。

暴力をふるう可能性がある状況として挙げられたものは「イライラしている時」（28.1%）、「相手が自分を怒らせた時」（22.3%）、「疲れている時」（16.5%）となっています（図表 61）。

平成21年度調査と比較すると、「相手が自分を怒らせた時」では28.7%→22.3%と減少しています。また、「7項目のうち一つでも選択した人」は、55.6%→49.0%と減少しています（図表 61）。



■男女別の傾向

暴力をふるう可能性については、女性では「暴力をふるうことはない」（女性 54.8%、男性 48.5%）、「相手の愛情を確かめたい時」（女性 13.9%、男性 8.1%）で男性との差が大きくなっています（図表 62）。

■年代別の傾向

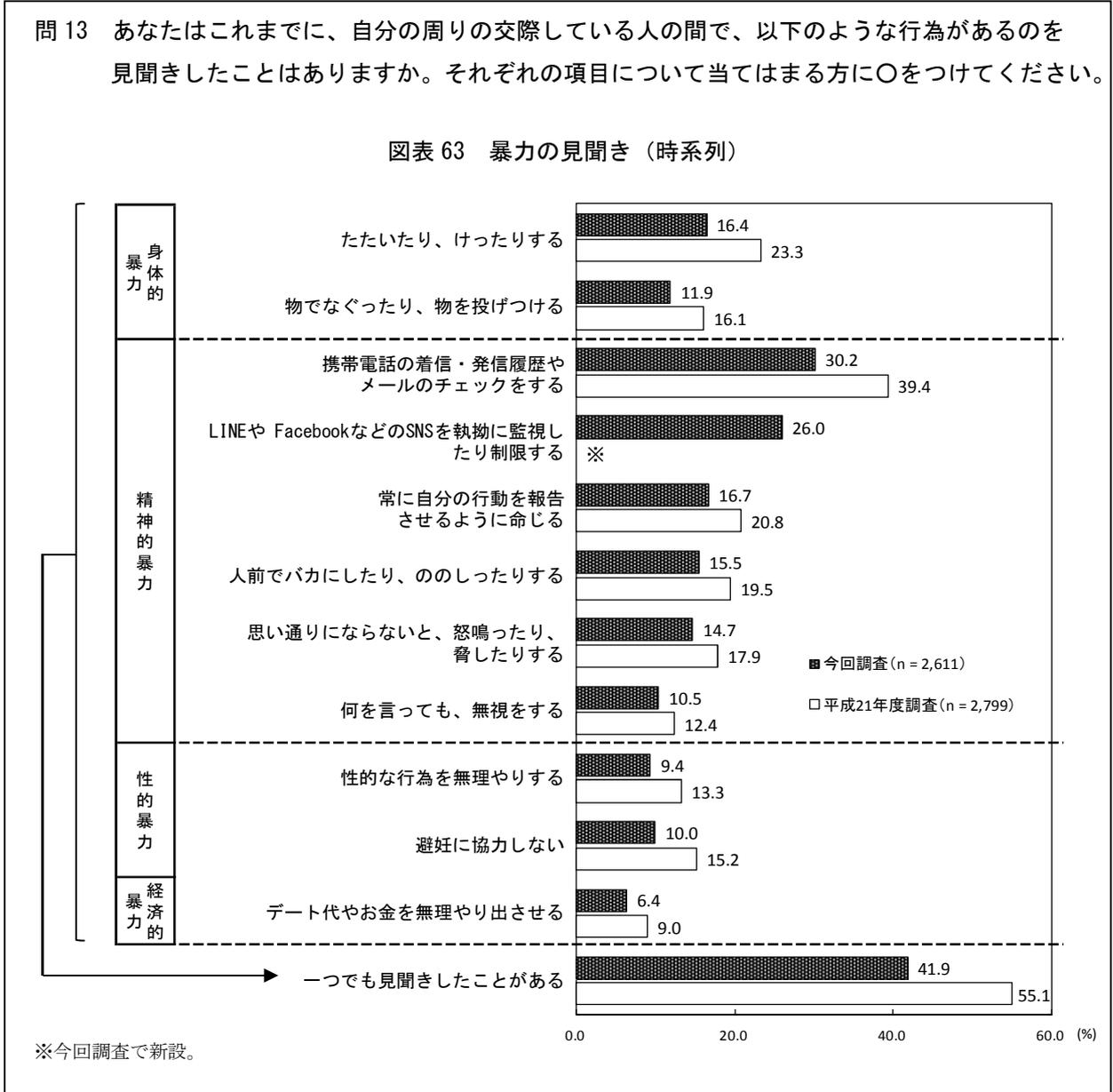
暴力をふるう可能性については、「イライラしている時」（高校生 22.3%、大学生 39.5%）や「相手が自分を怒らせた時」（高校生 19.8%、大学生 26.5%）など、すべての項目で大学生が高校生よりも高い割合となっています。一方、「暴力をふるうことはない」という回答は、高校生が 57.7%、大学生は 43.0%と高校生が 14.7 ポイント高くなっています（図表 62）。

■「その他」の回答

分類	主な内容	件数
暴力をふるうかどうかわからない	○わかりません（高校1年女性、高校3年女性、など）	4
自分が不安定な時	○体が熱くてダルイ時（高校1年女性） ○生理のとき（高校2年女性） ○遊びたい（高校1年男性）	3
暴力はふるわない	○絶対しない（高校1年男性） ○そんなことしない（高校2年男性） ○絶対にありえない（高校1年男性） ○そのようなことはない（高校1年男性）	4
その他	○信用が無くなったとき（高校3年女性） ○約束を破った（高校3年男性） ○暴力のすべてが悪いとは思わない（高校1年男性） ○ただ怒らせただけでなく、どうしようも許せなくなったら（高校1年女性） ○ふざけてじゃれ合い（高校2年女性）	5

5 暴力の見聞きについて

問13 暴力の見聞き

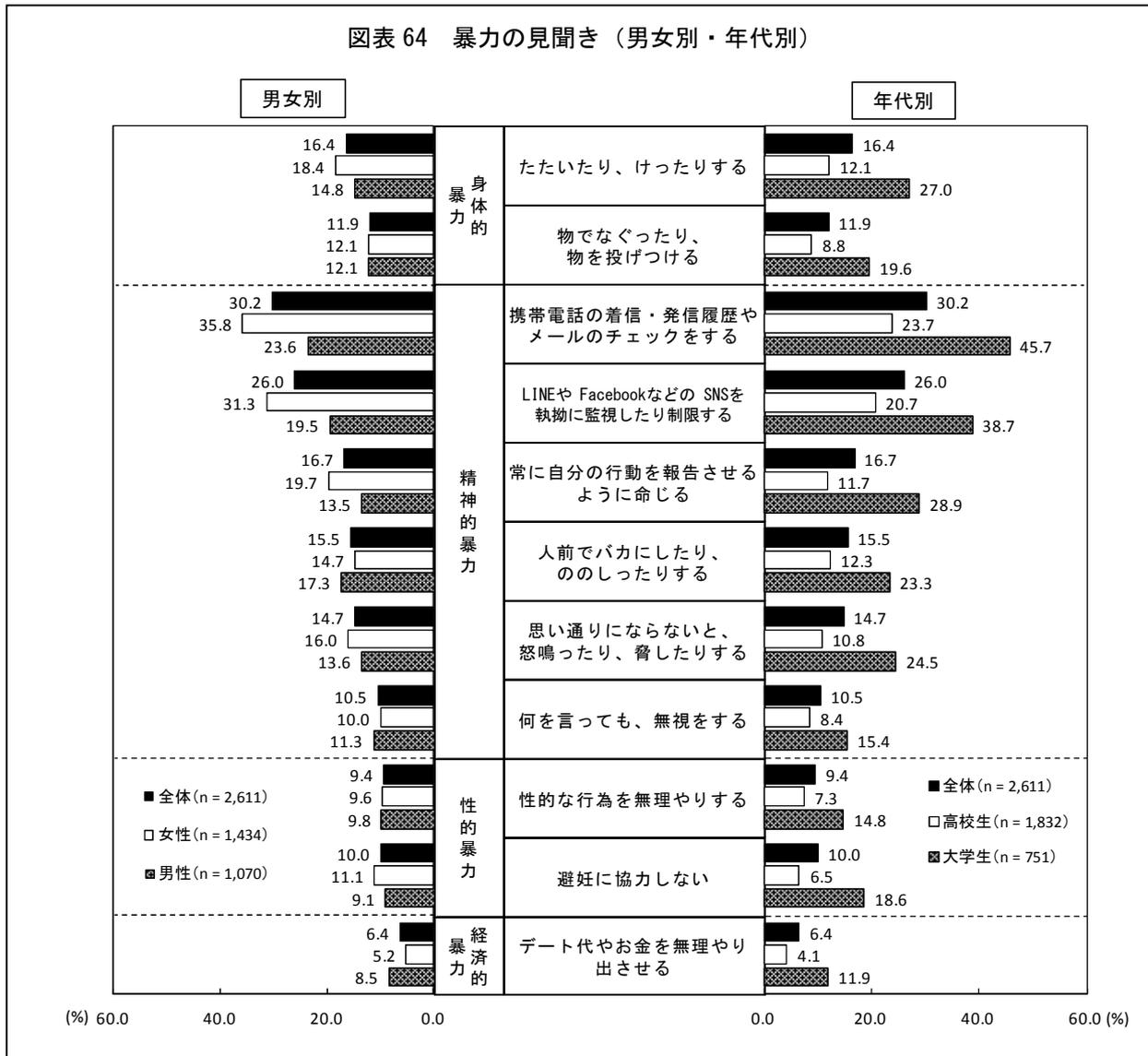


■全体の傾向および前回調査との比較

暴力の見聞きについて聞いたところ、「携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする」(30.2%)、「LINEやFacebookなどのSNSを執拗に監視したり制限する」(26.0%)などが挙げられ、「一つも見聞きしたことがある」は41.9%となっています(図表63)。

平成21年度調査と比較すると、全ての項目で暴力の見聞きは減少しており、「一つも見聞きしたことがある」(55.1%→41.9%)も13.2ポイントの減少となり、約4割程度となっています(図表63)。

図表 64 暴力の見聞き（男女別・年代別）



■男女別の傾向

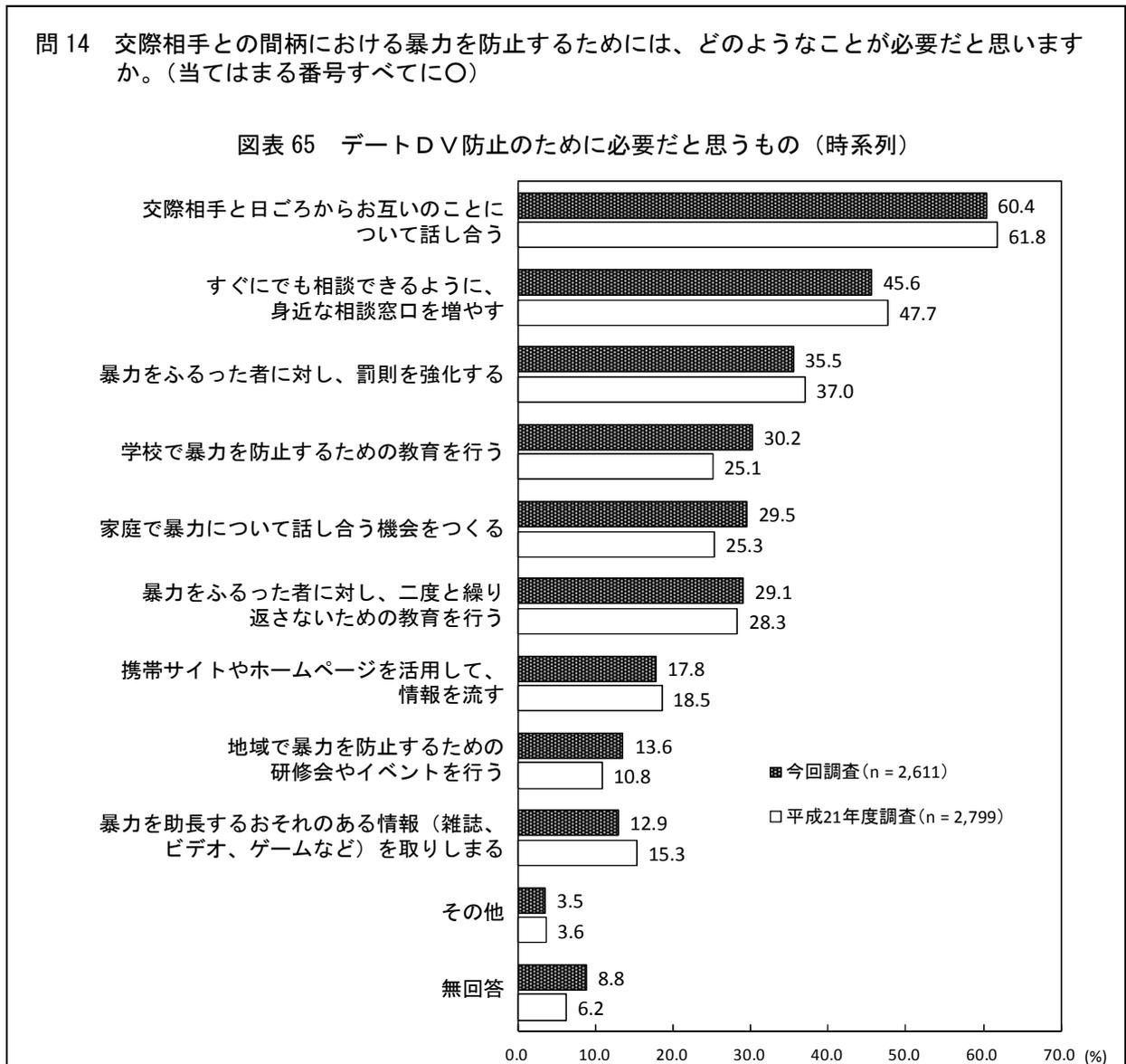
男女別では、女性では、「携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする」（女性 35.8%、男性 23.6%）や「LINE や Facebook などの SNS を執拗に監視したり制限する」（女性 31.3%、男性 19.5%）などで男性を 10 ポイント以上上回っています。男性では「人前でバカにしたり、ののしったりする」（女性 14.7%、男性 17.3%）、「デート代やお金を無理やり出させる」（女性 5.2%、男性 8.5%）、「何を言っても、無視をする」（女性 10.0%、男性 11.3%）で女性を上回っています（図表 64）。

■年代別の傾向

すべての項目で大学生が高校生よりも高い割合となっており、特に「携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする」（高校生 23.7%、大学生 45.7%）、「LINE や Facebook などの SNS を執拗に監視したり制限する」（高校生 20.7%、大学生 38.7%）では、大学生が高校生を約 20 ポイント上回っています（図表 64）。

6 デートDVの防止について

問14 デートDV防止のために必要だと思うもの

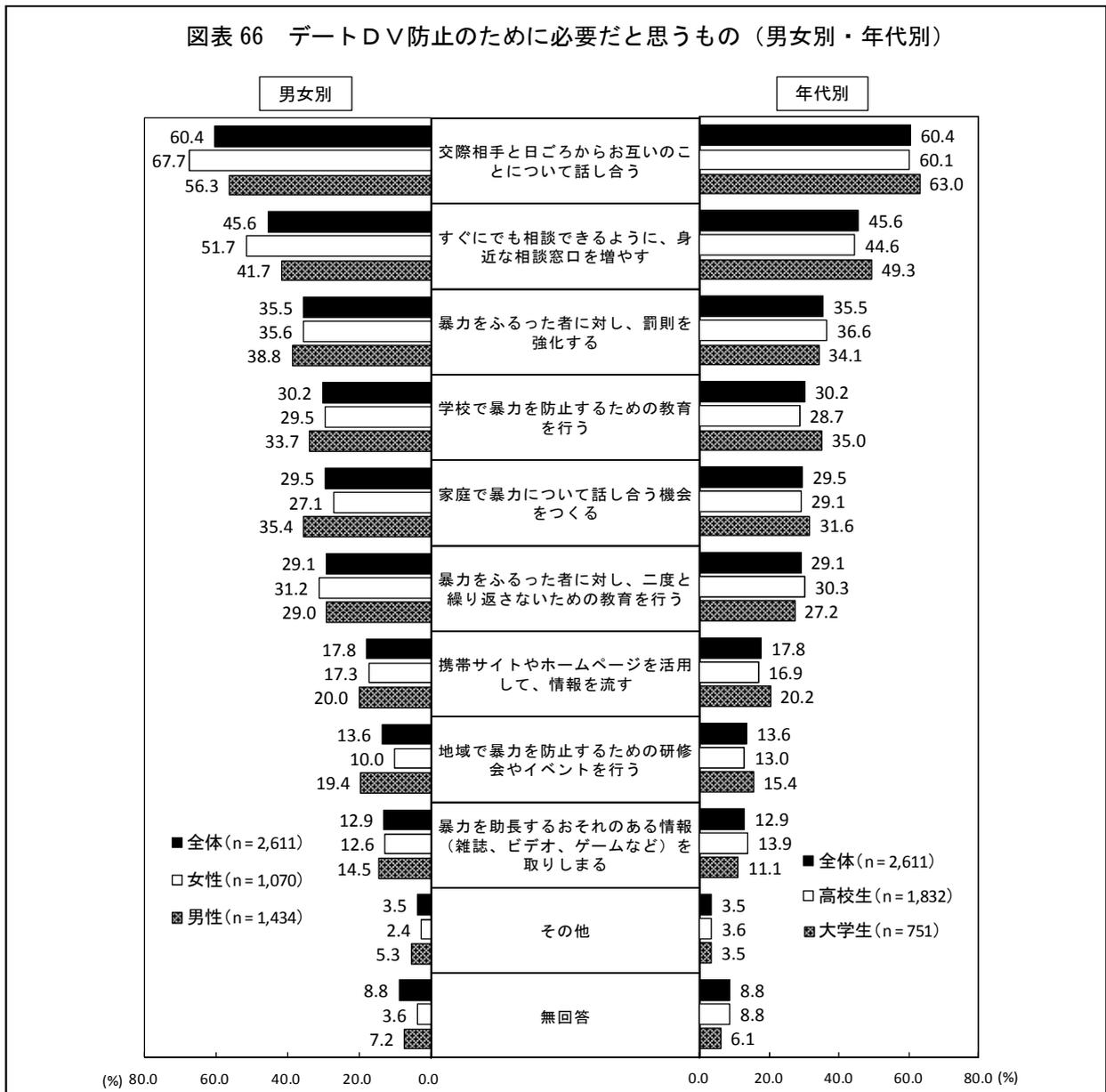


■全体の傾向および前回調査との比較

デートDV防止のために必要だと思うものについて聞いたところ、「交際相手と日ごろからお互いのことについて話し合う」が60.4%と最も多く、次いで「すぐにでも相談できるように、身近な相談窓口を増やす」(45.6%)、「暴力をふるった者に対し、罰則を強化する」(35.5%)などが必要だと思われています(図表65)。

平成21年度調査と比較すると、「学校で暴力を防止するための教育を行う」(25.1%→30.2%)や「家庭で暴力について話し合う機会をつくる」(25.3%→29.5%)で増加しています(図表65)。

図表 66 デートDV防止のために必要だと思うもの（男女別・年代別）



■男女別の傾向

女性では、「交際相手と日ごろからお互いのことについて話し合う」（女性 67.7%、男性 56.3%）、「すぐにも相談できるように、身近な相談窓口を増やす」（女性 51.7%、男性 41.7%）などで高くなっています。男性では「家庭で暴力について話し合う機会をつくる」（女性 27.1%、男性 35.4%）、「地域で暴力を防止するための研修会やイベントを行う」（女性 10.0%、男性 19.4%）などで高くなっています（図表 66）。

■年代別の傾向

高校生では、「暴力をふるった者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う」（高校生 30.3%、大学生 27.2%）、「暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、ビデオ、ゲームなど）を取りしめる」（高校生 13.9%、大学生 11.1%）などが大学生より高くなっており、大学生では、「すぐにでも相談できるように、身近な相談窓口を増やす」（高校生 44.6%、大学生 49.3%）、「学校で暴力を防止するための教育を行う」（高校生 28.7%、大学生 35.0%）、「携帯サイトやホームページを活用して、情報を流す」（高校生 16.9%、大学生 20.2%）などが高校生より高くなっています（図表 66）。

■その他の回答

分類	主な内容	件数
付き合わない・別れる	<ul style="list-style-type: none"> ○別れる（高校3年女性、高校2年男性、など） ○交際相手をつくらない（高校1年男性、高校2年女性、など） ○付き合う相手を選ぶ（高校2年男性） ○高校生の男女交際を禁止する（高校3年女性） 	15
暴力に関する教育を行う	<ul style="list-style-type: none"> ○互いに尊重する（高校2年男性） ○意識を高く持つ（高校3年男性） ○相手との信頼関係を持つ（高校3年女性、高校1年女性） ○個人の成長（高校3年女性） ○暴力をふるった側にカウンセリングをうけさせる（高校2年女性） ○相手を大切に考えましょう（高校3年男性） 	7
どうしようもない	<ul style="list-style-type: none"> ○防止は無理だと思う（高校3年男性） ○全部あまり意味ないと思う（高校1年女性） ○そんなの本人次第（高校1年男性） ○わからない（高校2年女性、など） 	6
相談先の確保	<ul style="list-style-type: none"> ○警察に行く（高校3年男性、高校1年女性） ○賠償金逮捕（高校3年男性） 	3
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○暴力をふるわない（高校1年男性） ○法律を作る（高校3年女性） ○愛を深めあう、浮気をしないこと（高校3年男性） ○選択肢8は表現の自由の侵害だと思う（高校3年男性） ○規制をしすぎない（高校2年男性） ○本当に好きな人とつきあうこと（高校1年女性） ○強くなる（高校3年男性） 	7